

地(知)の拠点大学による 地方創生推進事業(COC+) 地域イノベーションを推進する 三重創生ファンタジスタの養成

事業報告書 ～2年間の軌跡～

事業協働機関

他大学・高等教育機関

四日市大学
皇學館大学
鈴鹿大学
鈴鹿大学短期大学部
鈴鹿医療科学大学
三重県立看護大学
四日市看護医療大学
三重短期大学
高田短期大学
鈴鹿工業高等専門学校
鳥羽商船高等専門学校
近畿大学工業高等専門学校

企業・団体 ※50音順

(株)アーリーバード
ICDAホールディングス(株)
伊藤工機(株)
(株)医用工学研究所
(有)オズ海島遊民くらぶ
(株)ZTV
中外医薬生産(株)
辻製油(株)
日本土建(株)
速水林業
万協製薬(株)
(株)光機械製作所
(株)百五銀行
(株)百五総合研究所
(株)マサグループ本社
三重県商工会議所連合会
三重県商工会連合会
三重県農業協同組合中央会
(株)三重ティーエルオー
三重テレビ放送(株)

自治体

三重県

はじめに

三重大学は、平成27年度に文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択され、県内全ての高等教育機関、20の企業・団体及び三重県を事業協働機関として、事業の推進を開始しました。本報告書では、体制の構築から、教育プログラムの充実等、平成28年度までの三重大学COC+の軌跡について、事業概要、目的、三重創生ファンタジスタ等の前段を置き、第1部「実施体制の構築～キックオフシンポジウム」と第2部「三重創生ファンタジスタ教育プログラムの構築と各種事業の推進」と第3部「これまでの成果と課題」の3部構成にしています。

また、各事項における注釈、印刷物等は巻末に掲載していますので、隅々まで目を通していただければ幸いです。

地(知)の拠点として 地方創生をめざす

三重大学長・COC+事業総括責任者
駒田 美弘



少子高齢化、人口減少、グローバル化の進む三重県における地方創生・地域活性化は、三重県下の企業、行政、高等教育機関等が一体となって推進していかなくてはならない重要な課題です。三重県内人口は、出生数の減少と高齢者の死亡数の増加による自然減3,000人に加え、転出超過による社会減が5,000人にのぼり、毎年8,000人ほどの減少が続いています。特に、三重県内の高等教育機関に在学し、将来の進む道を決めるために学問に励んでいる20歳前後の若い人たちの減少が際立っています。この重要な時期をターゲットとした将来の地域リーダーの育成を目指す「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+事業）は、まさに「三重県内全ての地域の創生事業」と位置づけられます。高等教育機関は、しっかりと志を持った人材、地域でイノベーションを起こすことのできる逞しい人材を育成するとともに、その活躍の場である地域においても継続的に指導、支援を続けていく「人材育成の拠点」としての役割を担っています。地域の若者に、その志を実現するための道を分かりやすく提示するとともに、それに挑戦する機会を与えることが必要とされています。地方創生が待った無しの今こそ、高等教育機関は若者の学習意欲を奮い立たせるような、魅力ある地域人材育成教育プログラムを提示していかなくてはならないと感じます。

また、広い県土を有する三重県においては、様々な領域・分野において地域間の相違・偏在が認められています。人口は、県北部から伊勢湾沿いに集中しており、県南部は過疎地域になっています。一方、65歳以上の高齢者人口は急速に増加し、特に県南部の高齢化が凄まじい勢いで進んできています。また県北部は輸送用機械器具、電子部品、化学工業部門等の製造業が盛んであるのに対して、県南部では農林水産業、観光業が主な産業となっています。そのため、各地域の特色、現状を踏まえた地方創生の計画作成には、多領域にわたる膨大な、かつ信頼できるデータを収集し、得られたデータの科学的分析によって導き出されたエビデンスに基づいて、具体的な戦略を決めていくとともに、将来において深刻化する諸課題を予想し、早期に対処するための手立てを講じていくことも必要になります。このような多岐にわたる高度な専門能力が必要とされる総合計画の策定と実現には、産学官が協力することが必須ですし、その中で高等教育機関は、地域の「知の拠点」としての責務を担うことも期待されています。

現在の三重県下の29市町においては、少子高齢化、人口減少、グローバル化が想像を上回る凄まじいスピードで進んでいますし、加えて競争の原理が過度なまでに社会を支配しつつあります。時として、将来に不安を感じ、心が萎えてしまうこともあるのではと思いますが、このような困難な時代にこそ、地域の皆さんとともに、地域社会を活性化するための地（知）の拠点として精一杯の努力をして行きたいと考えています。今後ともご支援、ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

事業概要

本事業は、三重県における雇用の創出と若年層の県内就職率の向上につながる持続可能な地域の活性化と開発の方向を「食と観光分野」、「次世代産業分野」、「医療・健康・福祉分野」の3つで捉え、各々の分野をリードできる三重創生ファンタジスタを養成することを目的とするものである。具体的には、「地域志向科目群」、「地域実践交流科目群」、「地域イノベーション学科目群」の3つのステージで構成する「三重創生ファンタジスタ」資格認定副専攻コースを全学的に展開し、三重県の現状を知り、三重県の地域や産業の課題発見と解決方法を地域や現場の人たちと多面的なコミュニケーションを図りながら、産・官・学・民が一体となったオール三重体制の中で、今後の三重県を展望しつつ、三重県の新時代を切り拓くことのできる人材を育成しようとするものである。

目的

三重県に新たな雇用を生み出し、三重県を創生・創発するため、地域の課題に関してさまざまな主体と多面的な視点から対話しながら地域のイノベーションを推進できる三重創生ファンタジスタを養成する。

三重創生ファンタジスタ

三重創生ファンタジスタを以下のように定義し、全事業協働機関が連携し、オール三重体制で養成する。

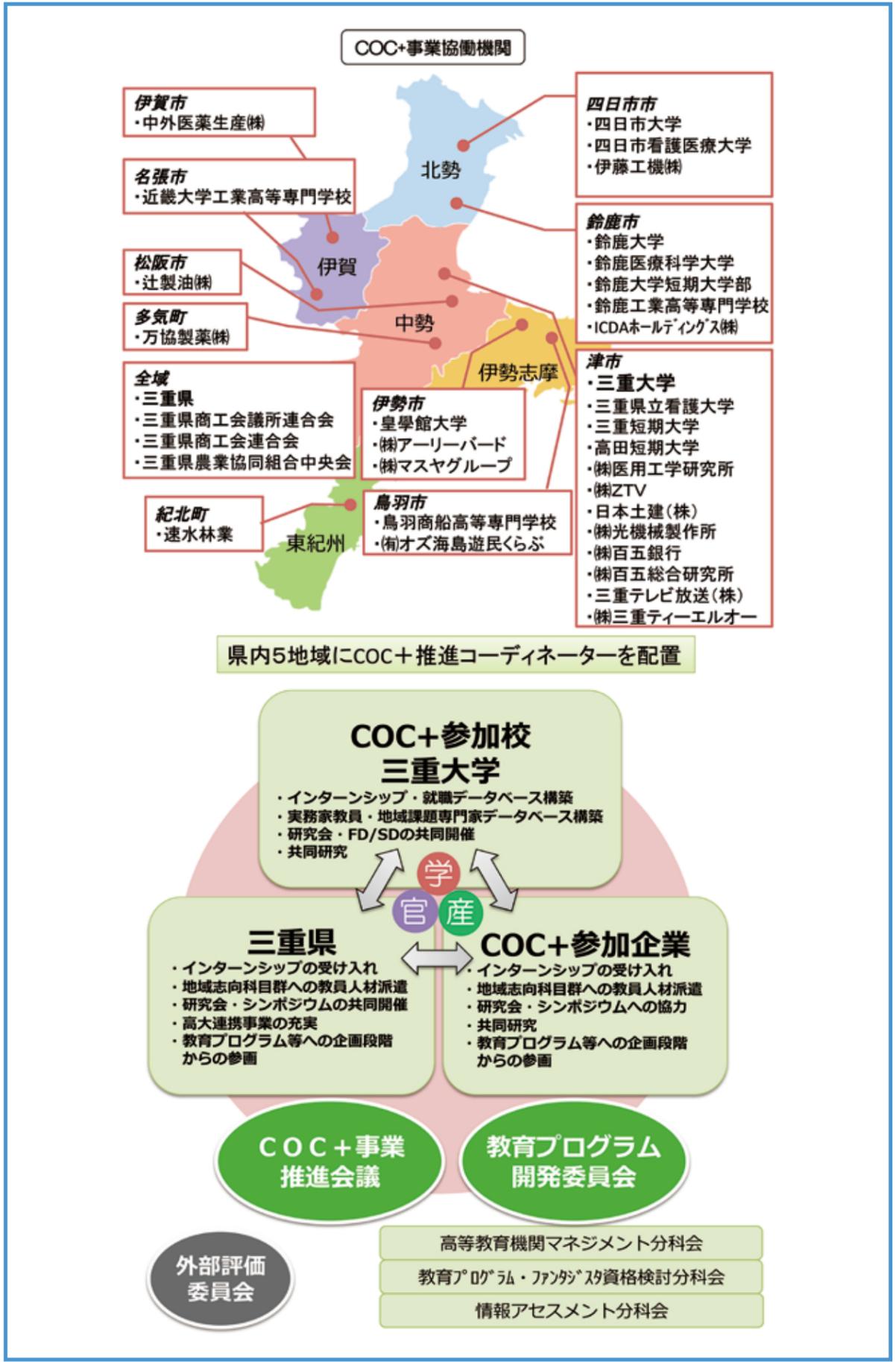
【三重創生ファンタジスタ】

- 地域の課題に関してさまざまな主体と多面的な視点から対話しながら地域のイノベーションを推進できる人材
- 状況や事態を的確に把握し、複眼的な視点から柔軟で創造力に富んだ発想や思考ができ、行動力とリーダーシップを発揮しながら、周りの人と協働できる人材等



三重創生ファンタジスタを目指す学生達の様子(イメージ)





目次

第1部 実施体制の構築～キックオフシンポジウム

1. 事業の実施体制

- 1-1 COC+事業実施体制図 9
- 1-2 組織及び各種会議体 〃
- 1-3 3つの分科会とWG体制詳細 10
- 1-4 平成27年度、28年度における各会議体開催状況一覧 〃
- 1-5 COC+HP 11
- 1-6 地域創発センターHP 〃
- 1-7 企業情報データベース 12

第2部 三重創生ファンタジスタ教育プログラムの構築と各種事業の推進

2. キックオフシンポジウムの開催 13

3. 三重創生ファンタジスタ教育プログラム

- 3-1 三重大学における三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コース 16
- 3-2 三重大学三重創生ファンタジスタ資格取得説明会 18
- 3-3 三重大学三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コース意向届提出数及び授業科目数 19
- 3-4 三重大学スタートアップセミナー 20
- 3-5 三重大学「三重を知る」共同授業 22
- 3-6 全高等教育機関におけるPBL科目 24
- 3-7 三重創生ファンタジスタ(ベーシック)資格 27

4. 各種事業・イベント

- 4-1 熟議(28.7.16) 29
- 4-2 熟議(29.2.12) 31
- 4-3 第一次産業体感ツアー(林業) 32
- 4-4 第一次産業体感ツアー(農業) 33
- 4-5 第一次産業体感ツアー(水産業) 34
- 4-6 留学生による地域大発見と情報発信ツアー 35
- 4-7 3本の第一次産業ビデオ教材 36
- 4-8 みえリーディング産業展 〃
- 4-9 三重大学/皇學館大学共催FD 37
- 4-10 高等教育コンソーシアムみえ 38
- 4-11 県内就職と地域活動に関する意識調査アンケート 39
- 4-12 社長セミナー 〃

第3部 これまでの成果と課題

5. これまでの成果と課題

- 5-1 これまでの成果 41
- 5-2 これまでの課題 〃

6. 外部評価委員会及び内部評価委員会

- 6-1 平成27年度外部評価委員会自己評価資料 42
- 6-2 平成27年度外部評価委員会評価資料 44
- 6-3 平成28年度内部評価委員会 46

関連データおよび注釈 48

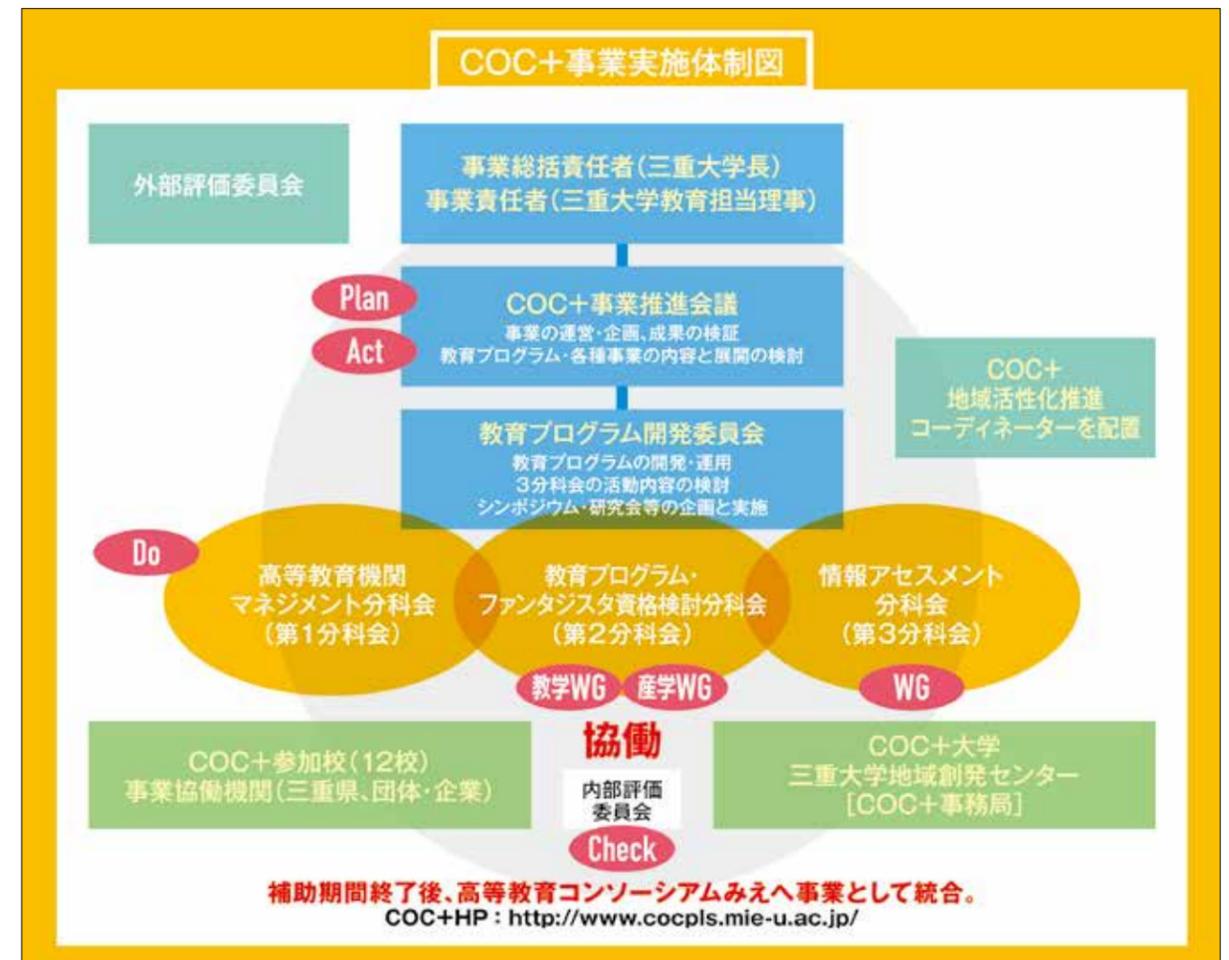
第1部

実施体制の構築 〽 キックオフシンポジウム

1. 事業の実施体制

1-1. COC+事業実施体制図

三重大学COC+では、以下のようなCOC+実施体制を構築し、PDCAサイクルを循環させる。COC+補助期間終了後は、高等教育コンソーシアムみえ(後述38ページ参照)に業務移管し、継続的に事業を実施できる体制を整えた。



COC+事業実施体制イメージ図

1-2. 組織及び各種会議体

COC+を推進するため、三重大学内に地域創発センターを設置し、COC+数値目標達成等に向けた施策の検討、三重創生ファンタジスタ教育プログラム検討等を行うこととした。また、以下の会議体を組織し、オール三重体制で事業を推進することとした。

- 三重大学地域創発センター及び地域創発センター運営委員会(注釈1)
- 教育プログラム開発委員会及びCOC+事業推進会議(注釈2)
- 教育プログラム開発委員会直下3つの分科会(注釈3)
- 内部評価委員会及び外部評価委員会(注釈4)

1-3. 3つの分科会とWG体制詳細

教育プログラム開発委員会直下に3つの分科会及びWGを設置し、各目的に応じて検討する体制を整えた。

分科会名	目的	構成機関	分科会長・WG長機関	備考
第1分科会 (高等教育機関マネジメント分科会)	COC+の数値目標達成に向けた取組を検討	三重県、四日市大学、皇學館大学、鈴鹿医療科学大学、三重大学	三重県	オブザーバー 事業協働機関ではない、COC+ 事業協力企業2社
第2分科会 (教育プログラム・ファンタジスタ資格検討分科会)	地域課題を解決する三重創生ファンタジスタを養成するカリキュラムについて検討。	(株)マシヤグループ、(株)光機械製作所、(株)百五総合研究所、中外医薬生産(株)、三重県、四日市大学、皇學館大学、鈴鹿大学、鈴鹿医療科学大学、三重大学	四日市大学	オブザーバー 事業協働機関ではない、COC+ 事業協力企業2社
第2分科会 教学WG (教育プログラム・ファンタジスタ資格検討分科会)	第2分科会の下に設置し、高等教育機関のみで、全高等教育機関が三重創生ファンタジスタを養成するカリキュラムを検討。	全高等教育機関(13高等教育機関)	四日市大学	
第2分科会 産学WG (教育プログラム・ファンタジスタ資格検討分科会)	三重創生ファンタジスタ資格が県内就職におけるインセンティブになるよう、産業界の代表者が集まって出口戦略を検討。	(株)百五総合研究所、三重県中小企業家同友会、(株)サン浦島、大王運輸(株)、(有)深緑茶房、(有)野瀬商店、扶桑工機(株)、(株)ハツメック、(株)中村製作所、(株)前田テクニカ、中外医薬生産(株)、橋本電子工業(株)、(株)ヒラマツ、(株)メディサポジャパン、(株)医用工学研究所、三重大学	(株)百五総合研究所	
第3分科会 (情報アセスメント分科会)	HPや求人・インターンシップデータベース等について検討。	三重県、四日市大学、皇學館大学、鳥羽商船高等専門学校、三重大学	三重大学	オブザーバー 事業協働機関ではない、COC+ 事業協力企業2社

分科会、WG体制図

1-4. 平成27年度、28年度における各会議体開催状況一覧

各会議体を以下のように開催した。「分科会、WG」は、開催場所を持ちまわりとし、各高等教育機関に出向き開催することで、全高等教育機関で作り上げるCOC+であることを明確に意識付けた。

年月	地域創発センター運営委員会	教育プログラム開発委員会	COC+事業推進会議	分科会、WG			内部評価委員会 外部評価委員会
				第1分科会 (高等教育機関 マネジメント分科会)	第2分科会 (教育プログラム・ ファンタジスタ資格検討分科会)	第3分科会 (情報アセスメント分科会)	
平成27年11月			全体会議開催				
平成27年12月	平成27年度第1回						
平成28年1月	平成27年度第2回、第3回		合同会議				
平成28年2月	平成27年度第4回、第5回						
平成28年3月	平成27年度第6回、第7回						
平成28年4月	平成28年度第1回						
平成28年5月	平成28年度第2回	平成28年度第1回	平成28年度第1回				平成27年度 外部評価委員会
平成28年6月	平成28年度第3回						
平成28年7月	平成28年度第4回			平成28年度第1回	平成28年度第1回	平成28年度第1回	
平成28年8月	平成28年度第5回				平成28年度第1回教学WG		
平成28年9月					平成28年度第2回教学WG		
平成28年10月	平成28年度第6回						
平成28年11月	平成28年度第7回			平成28年度第2回	平成28年度第3回教学WG		
平成28年12月	平成28年度第8回				平成28年度第4回教学WG		
平成29年1月	平成28年度第9回				平成28年度第5回教学WG	平成28年度第2回	平成28年度 内部評価委員会
平成29年2月	平成28年度第10回	平成29年度第2回	平成28年度第2回		平成28年度第1回産学WG		
平成29年3月	平成28年度第11回				平成28年度第6回教学WG	平成28年度第3回	

各会議体開催一覧

1-5. COC+HP

COC+HPには、全事業協働機関HP、三重大学以外の高等教育機関における三重創生ファンタジスタ資格の情報等、COC+全体に関する情報について掲載することとした。

COC+事業HP URL : <http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/>



HPトップ画面



記事イメージ

1-6. 地域創発センターHP

三重大学地域創発センターHPには、三重創生ファンタジスタに関する情報、各種イベント、学生ブログ等、主に三重大学に関する情報について掲載することとした。

三重大学地域創発センターHP URL : <http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiiki/>



HPトップ画面



記事イメージ

1-7. 企業情報データベース(注釈5)

COC+の掲げる目標値である、事業協働機関におけるインターンシップの増加計画や、県内就職率向上にかかる県内企業情報を発信するために企業情報データベースを構築し、企業情報の登録を行った。

掲載URL：http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/activities/db-company.html

※県内高等教育機関の学生及び関係者以外は閲覧できません。



企業情報データベース

2. キックオフシンポジウムの開催(注釈6)

平成28年1月23日(土)三重県庁講堂にてキックオフシンポジウムを開催し、275名が参加した。基調講演には、前明治大学学長であり、大学基準協会特別顧問の納谷廣美氏をお招きし、「地方創生とCOC+事業の意義と期待」をテーマにご講演いただいた。オール三重体制で地方創生に取り組もうとする熱気を感じることができたシンポジウムであった。

COC+シンポジウム 報告書

ダウンロード URL：http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiiki/coc-l.html



キックオフシンポジウムの様子

3.三重創生ファンタジスタ教育プログラム

3-1. 三重大学における三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コース（注釈7）

三重大学では、平成28年度入学生以降を対象に、「三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コース」を創設し、地域課題を解決する「三重創生ファンタジスタ」を養成する教育プログラムを整えた。



三重大学三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コース履修イメージ



三重創生ファンタジスタ資格案内パンフレット



入学おめでとう！

三重大学が、三重県が君の力を待っている。君の力と発想で三重の可能性を掘り起こしてみないか。

三重創生ファンタジスタ 資格を取得しよう！

地域の新たな可能性を見つけよう

三重を通して、条件を見よう

①三重大学では、地域のことを学び、多くの人たちと協働して、地域の課題解決に取り組む人を育成します。

②三重創生ファンタジスタ資格認定コースには、地域を知る、地域を体験するなど、地域創生に関わる講義や実践科目が開講されています。

③このコースは所属学部に関わらず、全ての学生が履修できます。

三重創生ファンタジスタになるためには、指定された科目を履修する必要があります。所属学部によらず、資格を取得することができます(副専攻と呼びます)。

「三重創生ファンタジスタ」資格認定副専攻コース

地方創生のエンジンとして活躍

三重創生ファンタジスタ

高次・観光分野 次世代産業分野 医療・健康・福祉分野

3つの科目群から12単位以上修得

1-1 地域イノベーション学科目群 (選択) 2単位以上
・三重県の現状・地理・歴史・文化・産業・教育・産業の実態について学ぶ機会
・講義形式中心(ゲストスピーカー)の活用
・高次・観光・医療・健康・福祉
・スタートアップ・セミナー(全学必修科目)

1-2 地域実践交流科目群 (選択) 2単位以上
・地域に入り、地域の課題に参画することを通して、現状や課題を体験的に理解する
・PBLセミナー、研修・討議型授業、インターンシップ、卒業(演習)実地
・コミュニケーションスキル、実践・行動力、異業交流・分野別・演習・判断力

1-3 地域志向科目群 (選択) 4単位以上
・地域の人と協働し、地域や産業の活性化、再生にむかふプロジェクトや共同研究を推進し、アイデアやプランを提案する
・プロジェクト、共同研究、プレゼンテーション
・最新な発想・想像力、発想力・判断力・リーダーシップ

12単位以上修得

皆さんは注目!!!

新しいことを始めてみたい
たくさんの人と出会いたい
行動力をつけたい
他学部の授業もどってみたい

合格者向け案内チラシ

三重創生ファンタジスタ 資格認定副専攻ガイド

副専攻コースとは

三重大学では、平成28年度より、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」のもと、「三重創生ファンタジスタ」を養成すべく、資格認定副専攻コースが設立されました。

副専攻コースとは、自分の所属する学部・学科の履修案内等に記載される「卒業単位数」で認定される教育カリキュラム(学生自身が所属する学部＝主専攻)とは異なり、学部の垣根を越えて学ぶことができる教育カリキュラムのことを言います。学部・学科は関係なく、希望した全学生の資格認定副専攻コースを受講できます。三重創生ファンタジスタ資格取得にかかる授業科目の多くは、教育教養職員及び各学部・学科の卒業単位としても位置づけられていますが、一部の科目については、卒業単位としてはカウントされないものもあります。また、卒業単位を超えて履修することになるものもあります。三重創生ファンタジスタ資格は、主専攻で定められている卒業に必要な単位を全て修得しなければ、資格認定副専攻コースの資格認定はされません。

三重創生ファンタジスタ資格とは

資格認定副専攻コースの大きなメリットは、主専攻で学んだ学習の補強や主専攻以外の第二の強みを獲得できることは勿論のことですが、何よりも「三重創生ファンタジスタ」という資格が学内で認定されることにあります。「三重創生ファンタジスタ」とは次のような人材を指します。

地域の課題に開いてさまざまな主体と多面的な視点から対話しながら地域のイノベーションを推進できる人材

状況や事象を的確に把握し、複層的な視点から柔軟な想像力に富んだ発想や思考ができ、行動力とリーダーシップを発揮しながら、周りの人と協働できる人材

対象学年

「三重創生ファンタジスタ」資格認定副専攻コースを受講できる学生は、平成26年度以降の入学生が対象です。平成28年度履修入生及びそれ以降の入学生、編入生は対象となりませんので、ご注意ください。

履修者には認定書を発行

卒業(学士) 資格認定

注 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+) COC+ Center of Creativity
大学が属する共同圏域や企業等と協働して、学生によって能力を高める取組を行うとともに、その地域が属する人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改善や取組を行う大学の取組を支援するもの。

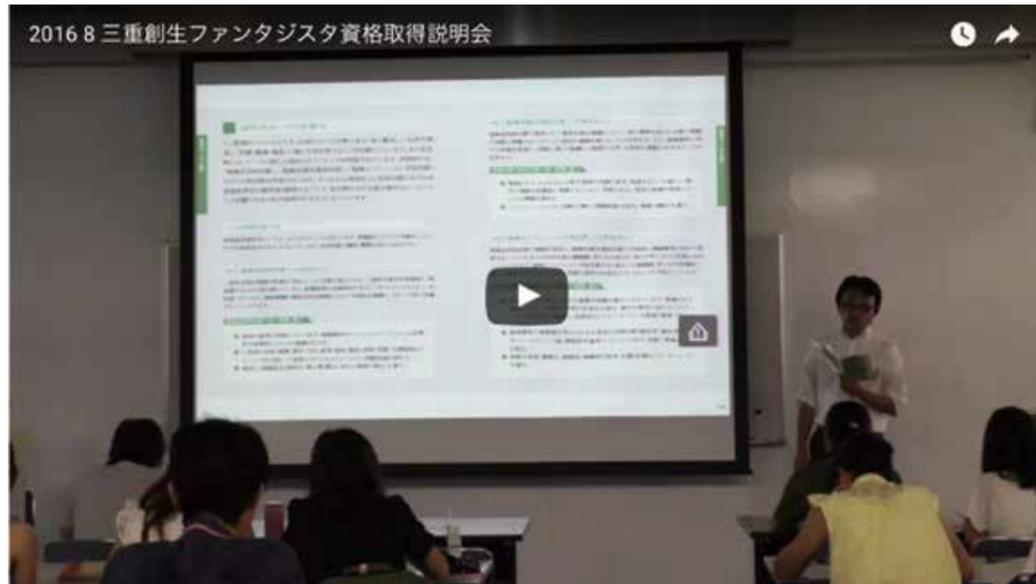
三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻ガイド

3-2. 三重大学三重創生ファンタジスタ資格取得説明会

平成28年8月4日(木)、5日(金)に「三重創生ファンタジスタ資格取得説明会」を開催し、三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コースに興味がある学生148名(2日間計)が参加した。

資格取得説明会動画

URL : <http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiiki/fantasista2016.html>



三重大学三重創生ファンタジスタ資格取得説明会の様子

3-3. 三重大学三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コース意向届提出数及び授業科目数

本副専攻コースに登録を希望する学生は、意向届を提出することで登録を認めることとしており、平成28年度末時点で、125名の学生が登録を行った。

学部・学科\分野	平成28年度 意向届提出者数			合計
	食と観光	次世代産業	医療・健康・福祉	
人文学部	18	6	1	25
文化学科	9	1	-	10
法律経済学科	9	5	1	15
教育学部	12	-	43	55
社会科教育コース	-	-	2	2
理科教育コース	-	-	1	1
保健体育コース	-	-	17	17
家政教育コース	12	-	-	12
特別支援教育コース	-	-	17	17
幼児教育コース	-	-	6	6
医学部	-	-	5	5
医学科	-	-	2	2
看護学科	-	-	3	3
工学部	-	3	-	3
機械工学科	-	2	-	2
分子素材工学科	-	1	-	1
生物資源学部	29	4	4	37
資源環境学科	10	2	-	12
共生環境学科	7	2	2	11
生物圏生命科学科(※)	12	-	2	14
全学	59	13	53	125

※平成28年度入学生のため、旧学科名称となっています。

平成28年度三重大学三重創生ファンタジスタ意向届提出者数

各学部より、三重創生ファンタジスタ養成に資する科目を準備し、既存科目に地域の内容を盛り込む等、学内が協力して三重創生ファンタジスタ養成を目指している。

平成28年度 三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コース 授業科目数

学部等\科目群	地域志向科目群	地域実践交流科目群	地域イノベーション学科科目群
教養教育機構	33	-	-
人文学部	2(1)	15(6)	9(2)
教育学部	5(1)	11	12
医学部	4(3)	8(2)	4(1)
工学部	4	13	40(4)
生物資源学部	0	23	27
全体	48(5)	70(8)	92(7)

()内は他学部生の受講が可能な科目数です。

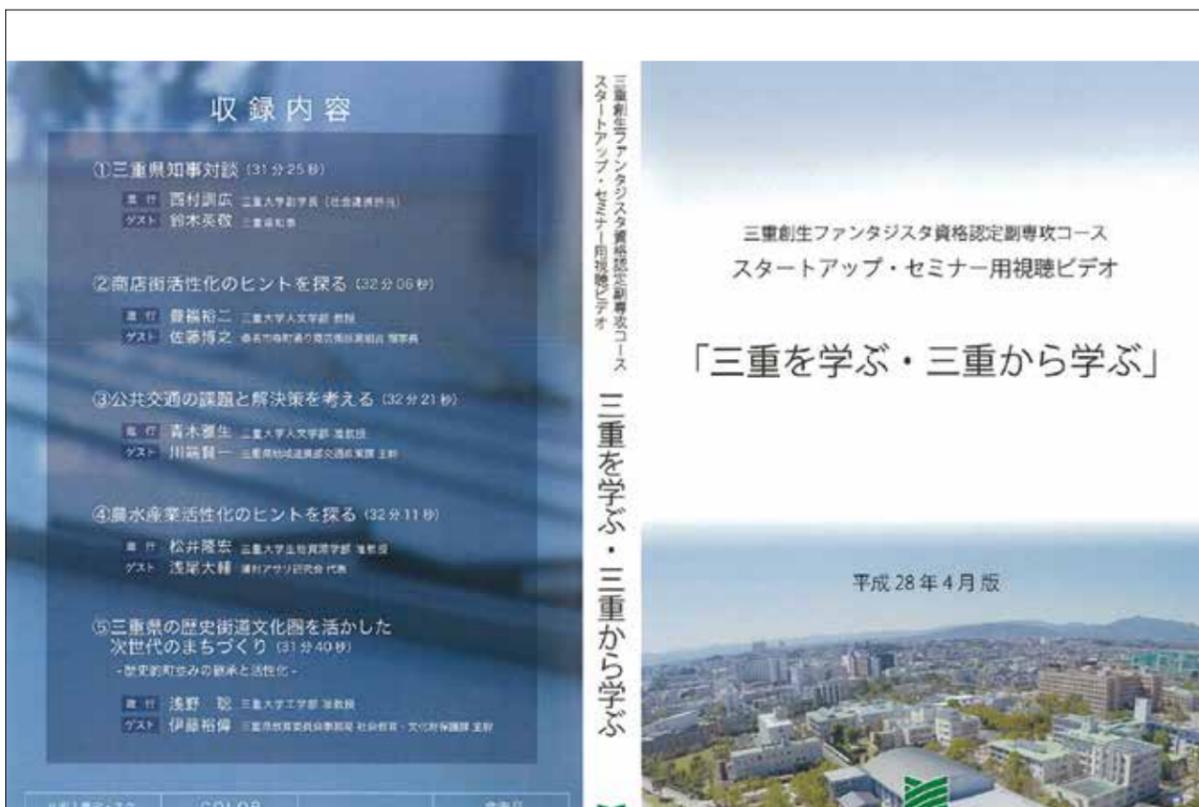
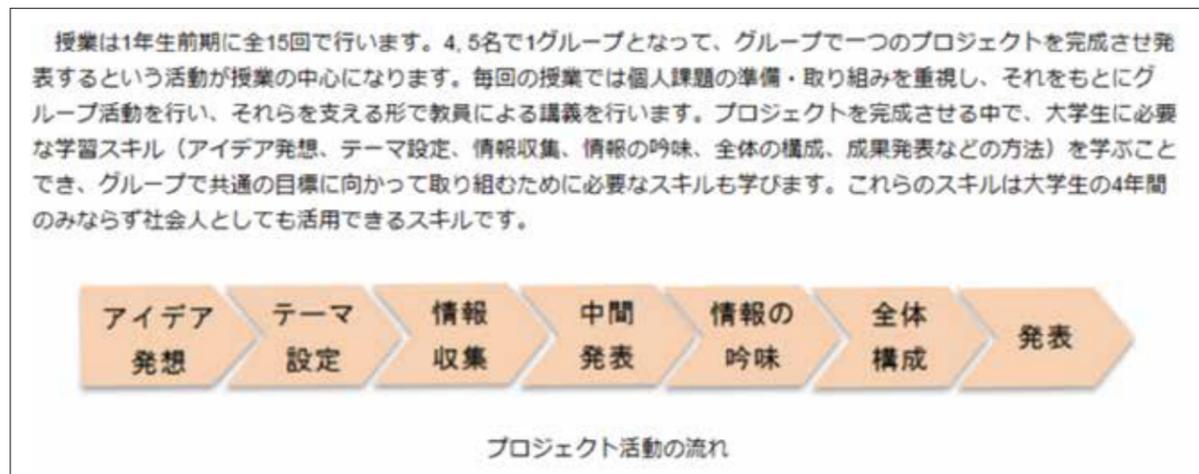
平成28年度三重創生ファンタジスタ対象授業科目数

3-4. 三重大学スタートアップセミナー

三重大学における1年次前期開講の全学必修科目である。COC+で作成した地域に関するビデオ教材を視聴し、三重県や各市町村が抱える課題についてグループで探究課題を設定する。情報収集と整理を繰り返しながら、学問的な観点から解決するための実行可能な提案をその成果として発表する。これらのプロセスを通して「4つの力」について理解を深め、大学生としての学びの基盤を作ることを目的としている。

三重大学教養教育機構HPスタートアップセミナー

URL : <http://www.ars.mie-u.ac.jp/subject/startup/index.html>



スタートアップセミナービデオ教材一覧



1. 三重県知事対談



2. 商店街活性化のヒントを探る



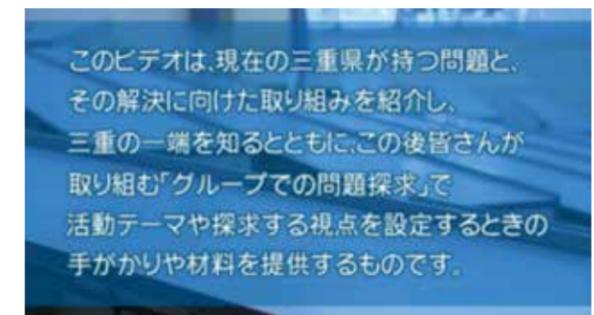
3. 公共交通の課題と解決策を考える



4. 農水産業活性化のヒントを探る



5. 三重県の歴史街道文化圏を活かした次世代のまちづくり - 歴史的町並みの継承と活性化 -



ビデオ教材導入部分の一部



スタートアップセミナー授業の様子

3-5. 三重大学「三重を知る」共同授業(注釈8)

日本理解特殊講義(授業テーマ:三重の歴史と文化)

三重大学における平成29年度前期開講科目であり、三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コースにおける地域志向科目群。三重県の歴史と文化等、三重県を『知る』ことに視点を置く。数多くのゲストスピーカーを招き、講義することで、様々な視点から歴史や文化を見つめなおすことができる。ビデオ撮影を行い、全高等教育機関で視聴できるようにする。

授業の概要	○三重は、古代より都に程近く、また陸路、海路双方の利便性に恵まれた環境にあったことから、多くの歴史的な出来事や文化的な遺産を残している。本授業は、こうした三重について、歴史、文化の基礎的な事柄を学ぶものであるが、特に今日の私たちの生活に大きな影響を与えた先人の偉業にスポットを当て、その工夫や労苦を学ぶことにより、履修者の将来の資とするものである。 ○また、過去から未来に視点を向け、三重の魅力である歴史・文化や観光資源を積極的に情報発信できるようその要点を学習する。 ○授業は、通常の講義に加え、テーマに精通したゲストスピーカーを迎え、その講話と参加者相互のディスカッションを通じ、多面的な角度から学習を行うこととする。
学習の目的	・大学が立地する三重について、 ①歴史の概要と特色 ②先人の努力の足跡と現代に通ずる先見性 ③将来の大交流時代に内外に発信できる三重の魅力と課題を学ぶ。 ・個々のテーマに精通したゲストスピーカーの知見や体験を織り交ぜた講話を通じて、様々な情報を吸収し、考察する。
学習の到達目標	・次の3点を到達目標とする。 ①三重の歴史、文化に親しみを抱き、三重学の基礎知識を習得する。 ②古今の先人が直面した困難とそれを乗り越える知恵と勇気を知る。 ③三重の魅力を分かり易く説明し、情報発信する。
学習内容	授業計画は以下のとおり。なお、テーマ・トピックスを扱う順序は変更されることがありうる。 【第1回】ガイダンス 【第2回】三重の特色「歴史的な流れと地理的な特色」 【第3回】先史時代の三重「古代生物、古代人の足跡」 【第4回】古代・中世の文化遺産 【第5回】近世の三重を担った人々「藤堂高虎と津のまちづくり」 【第6回】近世の三重を担った人々「伊勢商人と三井高利」 【第7回】近代のグローバル人材「真珠王 御木本幸吉」 【第8回】近代の苦難を乗り越えた人々「戦災・災害・公害」 【第9回】三重の現代「豊かな文化、観光資源」 【第10回】三重の食文化 【第11回】三重の観光資源「伊勢志摩の魅力」 【第12回】交流時代に向けた交通基盤づくり 【第13回】三重の課題と進む道 【第14回】現地調査「三重県総合博物館」 【第15回】三重の魅力の情報発信
学習課題(予習・復習)	各回の講義テーマに即して、事前に関連する文献・資料等を読んでおくこと。 授業後に内容を復習し、特に関心の深いポイントを掘り下げて考えてみる。 学習成果を踏まえたレポートの作成を求め、評価において重視する。

日本理解特殊講義(授業テーマ:三重の歴史と文化)シラバス

現代社会理解特殊講義(授業テーマ:三重の産業)

三重大学における平成29年度後期開講科目であり、三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コースにおける地域志向科目群。前期開講授業である「日本理解特殊講義(授業テーマ:三重の歴史と文化)」の発展系であり、三重県の産業等、三重県を『知る』ことに視点を置く。数多くのゲストスピーカーを招き、講義することで、様々な視点から産業を見つめなおすことができる。ビデオ撮影を行い、全高等教育機関で視聴できるようにする。

授業の概要	○三重は、ものづくりの世界センターである東海圏の一角を占める産業拠点である。また、温暖で伊勢湾に面することから、特色ある農林水産業が発展している。 ○本授業においては、科学技術の発展や国際化、健康志向、高齢化等の時代の趨勢等を踏まえ、次世代の成長産業分野に着目し、ものづくりや技術的な観点から学習するものである。 ○授業は通常の講義に加え、テーマに精通したゲストスピーカーを迎え、その講話と参加者相互のディスカッションを通じ、多面的な角度から学習を行うこととする。
学習の目的	・三重の地域産業について下記事項を学術と実務の両面から学習し、基礎知識と実務的な考察力を養う。 ①三重の産業の特色 ②次世代の製造業 ③農林水産業の動向と技術革新 ④医療・介護関連の製造業・情報サービス(医療行為・病院等は含まず)
学習の到達目標	次の3点を到達目標とする。 ①三重の産業の強み・弱みを把握する。 ②個々の産業の課題と展望を分析、考察する。 ③実社会における課題解決の取り組み・努力の事例を知る。 ・今後、産業、経済の学習を進めるに当たっての基礎力を高め、具体的な課題の分析、提案能力を涵養する。
学習内容	授業計画は以下のとおり。なお、テーマ・トピックスを扱う順序は変更されることがありうる。 【第1回】ガイダンス 【第2回】わが国及び東海圏において三重の産業が果たす役割 【第3回】三重の製造業の特色 【第4回】自動車産業 【第5回】航空機産業 【第6回】オンリーワン企業 【第7回】情報技術を活用する産業 【第8回】三重の農林水産業の特色 【第9回】農業の技術革新 【第10回】食品製造業 【第11回】医療、介護を支える製造業 【第12回】高齢化・過疎化時代を見守る情報サービス 【第13回】成長分野の発展を支える基盤的な産業 【第14回】特定産業分野の研究 その1 【第15回】特定産業分野の研究 その2
学習課題(予習・復習)	各回の講義テーマに即して、事前に関連する文献・資料等を読んでおくこと。 授業後に内容を復習し、特に関心の深いポイントを掘り下げて考えてみる。 学習成果を踏まえたレポートの作成を求め、評価において重視する。

現代社会理解特殊講義(授業テーマ:三重の産業)シラバス

3-6. 全高等教育機関におけるPBL科目(注釈9)

食と観光実践

「食と観光」に特化した内容であり、現地に赴き、現場で体感しながら、グループワーク等を通じてコミュニケーション能力、協調性を磨く。全高等教育機関による単位互換予定科目。

授業の概要	三重の地域をフィールド(2017年度:伊勢志摩)として、「食と観光」の切り口より、課題発見と解決方法に関して、第一線で活躍するスペシャリストと共に、グループワーク、ディスカッションを通して、自己研鑽を積む。 経済産業省が提唱する《社会人基礎力(「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」)の3つの能力=「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」)の素地を身につける。
学習の目的	観光産業は三重県にとって基幹産業の一つであり、ほぼ毎年入込者数は増加を続けている。 (http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000639462.pdf) 加えて、国を上げた施策により、インバウンド観光客数も増加の一途をたどっている。しかしながら一方で、県内高等教育機関に目を向けると、観光産業や関連産業について体系的に学習する機会は少ない。その理由としては、県内の観光産業の多くが中小零細のため発信力にかけ、高等教育機関への働きかけや中長期的な人材の確保・育成などが十分に行えていないのではないかと想定される。 学生たちの中には、地域の一次産業や自然環境、歴史風土文化を学び、将来のキャリアデザインを構築する際に、観光産業に活路を見出す者もいるはずであり、将来的に地域へ貢献する可能性を大いに秘めている。 そこで、県内の一大観光エリアである伊勢志摩をフィールドとし、「食と観光」の素材と魅力発信について見聞を広め、そこに参画することを想定して「何が出来るか」「どのようなスキルが必要か」「どのような連携が必要か」について、課題解決型授業を通じて修得する。
学習の到達目標	三重県における社会的現象(ポストサミット、レガシーの活用、少子高齢化、人口減少、等)を深く理解し、関連する諸分野の知識を統合し、理想的な地域の有り様を探究する。本科目の特徴は合宿型(2泊3日)であり、3~5人のグループワークを通して地域課題(「食と観光」)を発見し、それについて深い分析・考察を加え、その成果を効果的に表現する事で、自らの考えを社会に還元する素養を修得する。
事前学習(座学)	【1回目(5/13(土))13:00~17:00】@大川学園5階講義室 ①:オリエンテーション、本プログラムのねらい ②:三重における歴史的背景の概要説明 ③:伊勢志摩の食文化と風土(大川吉崇(みえの食文化研究会会長・大川学園)) ④:ご当地グルメを活用した町おこしとは 【2回目(6/17(土))13:00~17:00】@三重県総合博物館(レクチャールーム、等) ①:伊勢志摩の生活と食文化を含めた博物館見学(太田光俊(三重県総合博物館 MieMu学芸員)) ②:伊勢志摩の食と歴史(太田光俊(三重県総合博物館 MieMu学芸員)) ③:(仮テーマ)伊勢志摩の「食と観光」をプロデュースするとしたら? ※WS形式
学習内容	現地学習(2泊3日) (1日目(9/3(日))) 午前:行程説明 午後①:海女小屋(鳥羽・相模 はちまんかまど)にて海女さんへのランチヒアリング 午後②:海の博物館にて海女と食文化に関するレクチャー(石原義剛館長) 午後③:宿泊兼グループワーク場所に到着、 ～夕食～ 後にグループワーク (2日目(9/4(月))) 午前①:早朝参拝 1時間40分程度 ～朝食～ 午前②:伊勢の食と街並(横川史宏(伊勢福)、高橋徹(建築家)) ～昼食～ 午後①:グループ毎にヒアリング(候補:内宮の観光客、市町の観光協会、伊勢甘茶からあげ協会、等) ※ 海外から見た伊勢志摩の「食」について外国人観光客へヒアリング。 ※ 伝統料理(伊勢うどん、てこね寿司、他)、伝統菓子(赤福、へんば餅、他)について。 ※ 二軒茶屋餅と地ビール(角屋)、角屋関連で「伊勢うどん」とホイアンのカルラウ。 ※ 新しい食文化の創出についてヒアリング。(観光協会、伊勢甘茶からあげ協会、他) 午後②:宿泊兼グループワーク場所に到着、 ～夕食～ 後にグループワーク (3日目(9/5(火))) ～朝食～ 午前①:グループワーク@皇学館大学 ～昼食～ 午後①:発表会「伊勢志摩の「食と観光」に関する現状と課題」@皇学館大学 ※テーマ:マネジメント系、伝統の食文化系、新しい食文化系、インバウンド系、他 午後②:まとめ「伊勢における食と観光の可能性」 午後③:皇学館大学佐川記念神道博物館見学 (注意:現時点での学習内容となり、実際の授業実施に際しては、若干、変更の可能性もある。
学習課題(予習・復習)	予習:《自主調査学習(文献、Web)》 参考文献等をもとに、「伊勢志摩の「食と観光」をプロデュースするとしたら?」という題目で、レポートを課す。(A4、2000文字以内) 復習:レポート《事後学習》 各自、発表会でまとめた内容を踏まえて、レポートを提出する。

食と観光実践 シラバス

次世代産業実践

「次世代産業」に特化した内容であり、現地に赴き、現場で体感しながら、グループワーク等を通じてコミュニケーション能力、協調性を磨く。全高等教育機関による単位互換予定科目。

授業の概要	三重のバイタル産業に急成長する可能性を持つ、「次世代産業(2017年度:航空宇宙産業)」をテーマとして、課題発見と解決方法に関して、第一線で活躍するスペシャリストと共に、グループワーク、ディスカッション、実証実験を通して、自己研鑽を積む。 経済産業省が提唱する《社会人基礎力(「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」)の3つの能力=「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」)の素地を身につける。
学習の目的	日本の航空宇宙産業は戦後、防衛需要を中心に細々と継続・発展してきたが、1980年代より、大型旅客機の国際共同開発パートナーの一員として技術の蓄積を進めてきた。最近では、米ボーイング社の新鋭機であるB787の35%の部品を担うパートナーとして世界的に存在を高めたほか、国内初のジェット旅客機の開発にも着手するなど、先端産業としての発展可能性が注目されるに至っている。 本科目では、学生諸君が日本の航空宇宙産業の約50%を占める中部圏に居るのだ、という認識に立ち、「地場産業」として航空宇宙産業に対する理解を深めてもらい、将来第一線で活躍できる人材の発掘を目指す。
学習の到達目標	三重県における社会的現象(次世代産業、ものづくり産業、等)を深く理解し、関連する諸分野の知識を統合し、理想的な地域の有り様を探究する。本科目の特徴は合宿型(2泊3日)であり、3~5人のグループワークを通して地域課題(「次世代産業」)を発見し、それについて深い分析・考察を加え、その成果を効果的に表現する事で、自らの考えを社会に還元する素養を修得する。
学習内容	現地学習(2泊3日) (1日目(9/6(水)): (座学+グループワーク)) 午前①:グループワーク場所兼宿泊先に到着(鈴鹿市内) 午前②:講義「飛行機の歴史・ロケットの歴史」@創作室or研修室 ～昼食～ 午後①:講義「産業としての航空・宇宙」「航空機の構造と航空力学」「航空エンジンの構造」@創作室or研修室 午後②:講演「日本のロケット開発を支えた現場からのメッセージ」(小林実(元三菱重工宇宙機器部長、名古屋大学特任教授))@創作室or研修室 ～夕食～ 午後③(実験①)ペーパープレーンを各自設計製造する。@創作室or研修室 ※グループワーク(3人1組)でピア効果を醸成する。 (2日目(9/7(木)): (グループワーク+発表)) ～朝食～ 午前①:[実験②]飛行試験とデータ収集@創作室+総合研修館 ～昼食～ 午後①:[実験③]飛行試験とデータ収集@創作室+総合研修館 午後②:[実験④]実験結果報告会(全グループ)@総合研修館 午後③:実験結果についての総括@創作室 ～夕食～ 午後④:[まとめ]日本の航空宇宙産業の発展可能性@創作室or研修室 (3日目(9/8(金)): (見学)) ～朝食～ 午前①:移動【マイクロバス】 午前②:事例見学1(大起産業(木曾岬町))※概要説明、見学、質疑応答 ～昼食～ 午後①:事例見学2(三菱重工(株)名古屋航空宇宙システム製作所 飛鳥工場)※概要説明、見学、質疑応答 移動【マイクロバス】 午後②:バス車中にて振り返りとまとめ 四日市駅 解散、白子駅 解散、津駅 解散 (注意:現時点での学習内容となり、実際の授業実施に際しては、若干、変更の可能性もある。
学習課題(予習・復習)	予習:《事前学習(座学、自主調査学習(文献、Web))》 「日本の航空宇宙産業に関する課題と展望」というテーマで、A4レポート1枚にまとめ、事前(2週間前)に提出する。 復習:レポート《事後学習》 「本授業の履修を通して得られたもの」というテーマでA4レポート1枚を提出。※事後指導も実施。

次世代産業実践 シラバス

医療・健康・福祉実践

「医療・健康・福祉」に特化した内容であり、現地に赴き、現場で体感しながら、グループワーク等を通じてコミュニケーション能力、協調性を磨く。全高等教育機関による単位互換予定科目。

授業の概要	三重の地域(2017年度:志摩)をフィールドとして、「医療・健康・福祉」をテーマとして、課題発見と解決方法に関して、第一線で活躍するスペシャリストと共に、グループワーク、ディスカッションを通して、自己研鑽を積む。 経済産業省が提唱する《社会人基礎力(「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」)の3つの能力=「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」)の素地を身につける。
学習の目的	現代日本は、少子高齢化に伴う医療費・社会保障費の増大という構造的な課題を抱えています。そこで、その状況を解決するため、MBT (Medicine-Based Town) Planning等の新しい動き注1)が提唱されています。これまでの医療は、治療(近代西洋医学)を目的としていました。しかし、近年、そこへ補完・代替医療(Complementary and Alternative Medicine: CAM)、伝統医学を加味した総合医療、健康寿命を延ばすための予防医療へと発展させる気運が高まっています。それは、市民の積極的な医療への参画((仮称)アクティブ・メディカル・ラーニング:AML)による健康寿命を伸ばす事に寄与し、QOL(Quality of Life)やADL(Activities of Daily Living)の向上を実現し、新しい生活モデルを構築する事に繋がります。その一方で、喫緊の課題(無医村、産婦人科医・小児科医の不足、等)への対応策として、地域包括ケアシステム(地域医療)、ICTIによる医療福祉ネットワークの充実化、総合診療医の育成も進められています。また、住民の生活サービスの向上を目的としたコミュニティビジネス化を推進する事も検討されています。視点を変え、観光側面から鑑みると、海外では滞在型ヘルスツーリズムも盛んに取組まれています。日本でも湯治文化が古くから市民に親しまれ、伝統的な温泉療法とも捉えられ、一種の滞在型ヘルスツーリズムとも言えるでしょう。以上より、医療・健康・福祉分野が抱える課題は、多層的であり多様性に富んでいます。 最終的には、多主体が連携し、課題解決を行う「(仮称)地域医療ガバナンスシステム」の検討に向けた広い見識と視野を深める能力を養う事を本プログラムの目的とします。 注1) 細井裕司「医学を基礎とするまちづくりMedicine-Based Town(MBT)~奈良県と奈良県立医科大学の取組み~」
学習の到達目標	三重県における社会的事象(僻地医療、地域包括ケア、等)を深く理解し、関連する諸分野の知識を統合し、理想的な地域の有り様を探究する。本科目の特徴は合宿型(2泊3日)であり、3~5人のグループワークを通して地域課題(「医療・健康・福祉」)を発見し、それについて深い分析・考察を加え、その成果を効果的に表現する事で、自らの考えを社会に還元する素養を修得する。
学習内容	現地学習(2泊3日) 《1日目8/24(木):(座学+見学+グループワーク)》 午前①:三重大学集合 午前②:講義1「三重の医療を支援するICT」(北岡義国(医用工学研究所)) ~昼食~ 後、出発 ※移動【マイクロバス】 午後①:美杉クリニック到着 午後②:講義1「地域医療の課題とは」(田島和雄(美杉クリニック院長、元愛知県がんセンター研究所長、三重大学客員教授)) 午後③:現場見学 後、出発 ※移動【マイクロバス】 午後④:宿泊兼グループワーク場所に到着 ~夕食~ 午後⑤:グループワーク(ファーストインプレッション⇒グループ決め)@同上 《2日目8/25(金):(グループワーク+見学)》 ~朝食~ 午前①:出発 ※移動【マイクロバス】 午前②:志摩市民病院見学 ~昼食~ 午後①:現場見学 後、出発 ※移動【マイクロバス】 午後②:宿泊兼グループワーク場所に到着 ~夕食~ 午後③:講義2「志摩における地域医療とは」(江角悠太(志摩市民病院院長、三重大学臨床講師))@研修室 午後④:グループワーク@研修室 《3日目8/26(土):(グループワーク)》 ~朝食~ 午前①:グループ毎のプレゼンテーション+ディスカッション@研修室 午前②:グループワーク@同上 ~昼食~ 午後①:成果発表会(「健康地域づくりプログラムの構築」(田島、江角、永野、等))@同上 午後②:[まとめ] 出発 ※移動【マイクロバス】 津駅 解散 《注意》:現時点での学習内容となり、実際の授業実施に際しては、若干、変更の可能性もある。
学習課題(予習・復習)	予習:《事前学習(座学、自主調査学習(文献、Web))》 「健康地域づくりプログラムの構築」というテーマで、A4レポート1枚にまとめ、事前(2週間前)に提出する。 提出されたレポートを元に当日の授業内容も変更を加える。 復習:レポート《事後学習》 「本授業の履修を通して得られたもの」というテーマでA4レポート1枚を提出。※事後指導も実施。

医療・健康・福祉実践 シラバス

3-7. 三重創生ファンタジスタ (ベーシック) 資格 (注釈10)

平成29年度より県内9高等教育機関(四日市大学、皇學館大学、鈴鹿大学、鈴鹿医療科学大学、三重県立看護大学、四日市看護医療大学、三重短期大学、鈴鹿工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校)において、『三重創生ファンタジスタ (ベーシック) 資格』制度を開始し、三重創生ファンタジスタを養成することとなった。



三重創生ファンタジスタ (ベーシック) 資格共通表紙



三重創生ファンタジスタ (ベーシック) 資格裏表紙例



四日市大学



皇學館大学



鈴鹿大学



鈴鹿医療科学大学

三重創生ファンタジスタ (ベーシック)資格対象科目

科目名	学年	単位数
<input type="checkbox"/> 行政と医療政策	2年次	後期
<input type="checkbox"/> 看護人権工学	2年次	後期
<input type="checkbox"/> 運動処方	2年次	後期
<input type="checkbox"/> キャリアデザイン	2年次	後期
<input type="checkbox"/> 実務看護	4年次	後期

上記全ての授業の単位を平成29年度以降に修得

三重県立看護大学

三重創生ファンタジスタ (ベーシック)資格対象科目

授業科目	担当教員	学期	曜日	時間
<input type="checkbox"/> 地域看護学概論	豊島 幸子	前期	大塚日	3限
<input type="checkbox"/> 公衆衛生学	工藤 実史	前期	大塚日	1限
<input type="checkbox"/> 在宅看護学	豊島 幸子	前期	金曜日	3-4限
<input type="checkbox"/> 在宅看護学実習	豊島 幸子	後期	大塚日	3-4限
<input type="checkbox"/> コミュニティアプローチ	豊島 幸子	後期	大塚日	3-4限
<input type="checkbox"/> 専門看護学	豊島 幸子	前期	大塚日	4-5限

上記科目から授業・実習の単位を平成29年度以降に6単位以上修得すること。

手続き方法 資格認定を希望する学生は、認定申請用紙に必要事項を記入して、履修申請期間に提出すること。

四日市看護医療大学

三重創生ファンタジスタ (ベーシック)資格対象科目

授業科目	担当教員	学期	曜日	時間
<input type="checkbox"/> 地域学	鈴木 晃也	前期	本曜日	1-2限
<input type="checkbox"/> 自治体行政概論	立石 芳夫	前期	月曜日	9-10限
<input type="checkbox"/> 企業論	山田 純	前期	水曜日	5-6限
<input type="checkbox"/> キャリア形成セミナー	学生担当	前期	大塚日	9-10限
<input type="checkbox"/> 地域政策論	小野寺 一成	前期	金曜日	3-4限
<input type="checkbox"/> 森林体験セミナー	担当者	前期	集中講義	

上記から3つ以上の授業の単位を平成29年度以降に修得

手続き方法 三重創生ファンタジスタ(ベーシック)資格対象科目を3科目以上履修して単位を修得し、資格認定を希望する学生は、毎年度履修成績発表後、学生部窓口で資格認定申請を行ってください。

三重短期大学

三重創生ファンタジスタ (ベーシック)資格対象科目

授業科目	単位数	備考
<input type="checkbox"/> 地域学(4単位必修)	4単位	地域学(4単位必修)として履修する必要がある
<input type="checkbox"/> インターシップ(4単位必修)	4単位	インターンシップ(4単位必修)として履修する必要がある
<input type="checkbox"/> 卒業研究(4単位必修)	4単位	卒業研究(4単位必修)として履修する必要がある
<input type="checkbox"/> 地域学(2単位)	2単位	地域学(2単位)として履修する必要がある
<input type="checkbox"/> 地域学(1単位)	1単位	地域学(1単位)として履修する必要がある
<input type="checkbox"/> 地域学(0.5単位)	0.5単位	地域学(0.5単位)として履修する必要がある
<input type="checkbox"/> 地域学(0.25単位)	0.25単位	地域学(0.25単位)として履修する必要がある
<input type="checkbox"/> 地域学(0.125単位)	0.125単位	地域学(0.125単位)として履修する必要がある
<input type="checkbox"/> 地域学(0.0625単位)	0.0625単位	地域学(0.0625単位)として履修する必要がある

上記から3単位以上を平成29年度以降に修得

手続き方法 三重創生ファンタジスタ(ベーシック)資格認定については自己申請とします。上記の科目より修得必要単位数を満たした場合は、資格認定申請書を記入の上、教務係に提出して下さい。

鈴鹿工業高等専門学校

三重創生ファンタジスタ (ベーシック)資格対象科目

学科等	科目名	科目	学年	単位数	認定条件	備考
工学部	工学概論	工学	4	1	県内企業からの講師派遣があること。	後期
	校外実習	工学	4	1	県内企業のインターンシップであること。	後期
	プレゼンテーション演習	工学	4	1	地域に関わる調査結果のプレゼンテーションであること。	後期
	工学実習	工学	5	3	地域に関わる実習テーマであること。	後期
	卒業研究	工学	5	8	県内企業との共同研究または地域に関わる研究であること。	後期
	協賛機関(工学部)実習	工学	4	1	県内企業と協賛機関(工学部)との共同研究または地域に関わる研究であること。	後期
	校外実習	工学	4	1	県内企業のインターンシップであること。	後期
	工学実習1	工学	4	3	企業から派遣している講師等について取り上げ、それを実習テーマとすること。	後期
	都立大学(システム工学)	工学	5	2	県内企業との共同研究または地域に関わるテーマが含まれていること。	後期
	情報通信	工学	5	2	最新のクラウド活用事例などをテーマに、県内企業からの講師派遣があること。	後期
システム工学部	卒業研究	工学	5	8	県内企業との共同研究または地域に関わる研究であること。	後期
	地域工学	工学	2	2	県内の産学連携を取り上げていること。	後期
	システム工学実習	工学	1.2	0.2	企業から派遣する講師を取り上げていること。	後期
	システム工学実習2	工学	1	2	県内企業のインターンシップであること。	後期
	システム工学実習3	工学	1.2	0.1	地域をテーマにしたものであること。	後期
	システム工学実習4	工学	1	3	県内企業との共同研究または地域に関わる研究であること。	後期
	システム工学実習5	工学	2	3	県内企業との共同研究または地域に関わる研究であること。	後期

上記から90時間以上を平成29年度以降に修得。なお、学修単位は1単位15時間、履修単位は1単位30時間です。

手続き方法 三重創生ファンタジスタ(ベーシック)資格認定については、自己申請とします。上記の科目より修得必要単位数を満たした場合は、単位認定申請書を教務係に提出して下さい。

鳥羽商船高等専門学校

4. 各種事業・イベント

4-1. 熟議 (28.7.16) (注釈11)

平成28年7月16日(土)に開催された熟議では、学生と教職員で熟議運営委員会を組織し、学生が主体となって開催した。司会・進行、資料の作成等、精力的に動く学生の姿が見受けられた。事業協働機関である、三重県、株式会社マスカグループ、百五銀行、中外医薬生産株式会社、三重県農業協同組合中央会、百五総合研究所が参加した。

学生(熟議運営委員会)制作物一覧

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

地域の魅力を考える ~地域にあるもの都会にあるもの~

2016.7.16(土) 10:00-15:30
[会場]三重大学講堂(三草ホール)小ホール

入場無料 事前申込要 定員200人

PROGRAM

(敬称略)
9:30~10:00 受付
10:00~10:15 開会挨拶
10:15~11:30 基調講演(1部)
 講師 木村 修
 伊賀の里モクモク手作りファーム会長
11:30~12:30 昼休み
12:30~12:45 進行説明
12:45~13:45 グループ討議(2部)
13:45~14:00 休憩
14:00~15:20 グループ発表
15:20~15:30 閉会挨拶

Access・申込方法等は裏面に記載

ポスター

熟議「地域の魅力を考える～地域にあるもの都会にあるもの～」に関するアンケート

2016年7月16日

本日は、熟議「地域の魅力を考える～地域にあるもの都会にあるもの～」にご参加いただき、誠にありがとうございます。正しい中恐れ入りますが、以下のアンケートへのご協力をお願いいたします。

*お名前、ご職業などの個人情報は差し支えない部分のみご記入いただければ、問題ありません。

【お名前】() 【性別】(男性・女性)

【所属】()

【参加形態】(基調講演参加者・グループ討議参加者・グループ討議見学者)

1. 本日の熟議「地域の魅力を考える～地域にあるもの都会にあるもの～」を何でお知りになりましたか?(*複数回答可)

三重大学HP ポスター 先生方の紹介 学生の紹介 その他()

2. 本日の熟議「地域の魅力を考える～地域にあるもの都会にあるもの～」について、あてはまるものにチェックを入れてください。

また、具体的にどのような点でそう感じたのかをお聞かせ下さい。

満足した ある程度満足した 普通 少し不満だった 不満だった

3. 今後の熟議のグループ討議の進行において時間配分などは適当でしたか?

また、具体的にどのような点でそう感じたのかをお聞かせ下さい。

アンケート



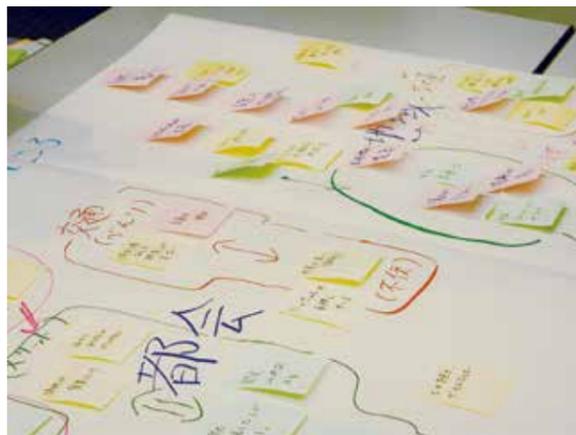
熟議運営委員会 学生メンバーの様子



伊賀の里モクモク手作りファーム木村会長の講演



グループワークの様子①



グループワークの様子②



学生による発表①



学生による発表②



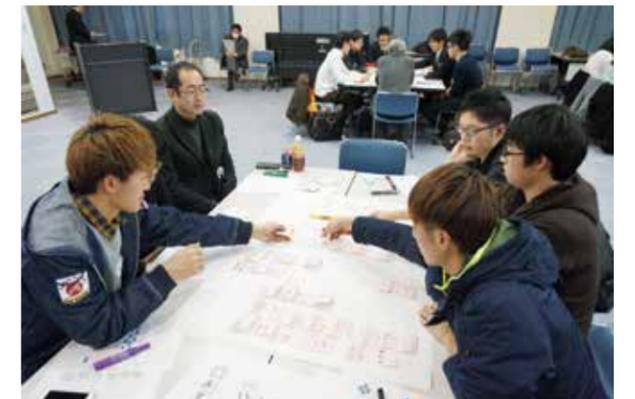
グループ毎の記念撮影

4-2. 熟議 (29.2.12) (注釈12)

平成29年2月12日(日)に開催された熟議では、平成28年度実施した「第一次産業体感ツアー(後述32ページ~34ページ参照)」の報告会及び第一次産業の振興策等を考える熟議の2部構成とし、本体感ツアー参加者や第一次産業従事者及び第一次産業等に興味がある学生等が参加した。事業協働機関である三重県が参加した。



第一次産業体感ツアー報告会



グループワークの様子



学生による発表

1部、2部全てどなたでも参加可

2017.2.12(日) [会場] 三重大学 総合研究棟II 1F メディアホール
10:00~17:15

内容は今年度実施した「第一次産業体感ツアー」の報告会を行い、午後は県内第一次産業のあり方について企業、自治体など様々な方々と討議します。

●プログラム(テーマ:三重をもっと元気に!)

10:00~10:10	開会挨拶
10:10~12:15	林業、水産業、農業の第一次産業体感ツアーの概要、学生からの報告、質問等
12:15~13:15	休憩
13:15~13:30	開会挨拶・熟議の進め方
13:30~14:45	第一次産業の今後のあり方についてグループ討議、まとめ
15:00~16:00	各グループより発表
16:00~16:10	謝辞・閉会挨拶
16:15~17:15	交流会(別)

アクセス・申込方法は裏面に記載

ポスター

4-3. 第一次産業体感ツアー（林業）（注釈13）

平成28年8月24日（水）～8月26日（金）に、東紀州地域における紀勢地区（大台町・大紀町）において、林業を体感するツアーを開催した。このツアーは、三重県南部の課題、ポテンシャル、人を第一次産業の視点から体感し、地域の魅力を発見することを目的とし、平成29年度COC+事業における教育プログラム（カリキュラム）の構築に向けたトライアル事業として実施し、三重大学3名、皇學館大学2名の学生が参加した。



林業体感ツアーの様子

学生の声

- ◆視野を広げることが大事であると感じました。今の時代、たとえ田舎で仕事をしていようとそれは全国とつながっているのだなと思いました。
- ◆重機はとても専門的な知識が必要であるのかなと思っていましたが、意外とそうでもなく慣れによるものであるなと感じました。
- ◆自分の仕事があることは、生きがいとして欠かせないことだと思うし、その仕事の為には広い人間関係を創っていかなければならないと思いました。
- ◆大紀森林組合は、持続可能な社会を築くために林業を通して地域貢献をしようとしていることが分かりました。森林の管理から木材の販売、そして地域と関わることまで行っていることはすごいことだと感じました。

4-4. 第一次産業体感ツアー（農業）（注釈13）

平成28年8月31日（水）～9月2日（金）に、東紀州地域における紀南地区（熊野市・御浜町・紀宝町）において、農業を体感するツアーを開催した。このツアーは、三重県南部の課題、ポテンシャル、人を第一次産業の視点から体感し、地域の魅力を発見することを目的とし、平成29年度COC+事業における教育プログラム（カリキュラム）の構築に向けたトライアル事業として実施し、三重大学4名（教員1名）、四日市大学5名（教員1名）、鈴鹿大学教員1名が参加した。



農業体感ツアーの様子

学生の声

- ◆農作業がいくら効率的で、おいしいものが出来上がったとしても、それを流通させる営業能力がなければ、全く意味がないということを感じました。
- ◆市の職員の方によると、「農業」から派生して「観光や定住促進」につなげていきたいということでした。私がこれまで考えていた地域活性化の考え方として「観光」といったように一旦町に入ってもらい、そこから農業や定住につなげていくということでしたが、逆の入り方というものもあるということを知りました。

4-5. 第一次産業体感ツアー(水産業)(注釈13)

平成28年9月6日(火)、7日(水)に、東紀州地域において、水産業を体感するツアーを開催した。このツアーは、三重県南部の課題、ポテンシャル、人を第一次産業の視点から体感し、地域の魅力を発見することを目的とし、平成29年度COC+事業における教育プログラム(カリキュラム)の構築に向けたトライアル事業として実施し、34名の学生が参加した。本ツアーは事業協働機関である株式会社三重ティーエルオーと連携して実施した。



水産業体感ツアーの様子

学生の声

- ◆新鮮な状態で流通が可能な範囲は尾鷲市内とその周囲だけだと思っていましたが、私が住む津市など三重県内だけでなく、近畿・中部・関東地方にまで流通していると知り、尾鷲の地理的な条件を最大限に活かしていると感じました。
- ◆懇親会で交流した方たちは、自分の仕事について話をしているとき、すごくきらきらと輝いて素直にかっこいいと思いました。
- ◆魚のさばき方が利益までも左右するというお話は印象的でした。今後、世界で魚の消費量は増加するとのことなので、海外向けビジネスとして尾鷲物産の取組は注目を集めるのではないかと思います。

4-6. 留学生による地域大発見と情報発信ツアー(注釈14)

平成28年9月6日(火)～9月9日(金)に、COC+参加校に留学している学生と共に県内東紀州地域の自然・歴史・文化を3泊4日で体感してもらうことにより、地域(三重県)の魅力をSNS、Instagram等により世界に情報発信をしてもらうとともに、留学生の県内就労を促すことを目的に体感ツアーを実施した。三重大学、鈴鹿大学、四日市大学から計13名の学生が参加した。



留学生による地域大発見と情報発信ツアーの様子

学生の声

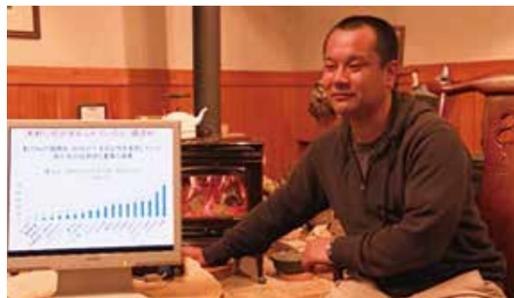
- ◆とても印象に残ったのが丸山千枚田でした。自然保合の為7人の高齢者の方々が命をかけていたことは本当にすばらしかったです。高齢化が進んでいる中で、丸山千枚田をどう引き継げるのかを考えるべきではないかと思います。
- ◆個人的には大勢の観光客を引き込む仕事をしたいと考えており、三重の魅力を世界の人々へ伝えていきたい。

4-7. 3本の第一次産業ビデオ教材(注釈15)

平成28年度実施した第一次産業体感ツアーの内容を3本のビデオ教材(林業・農業・水産業)にし、参加した学生の振り返りや参加できなかった学生への学修の機会を創出した。

3本(林業・農業・水産業)のビデオ教材

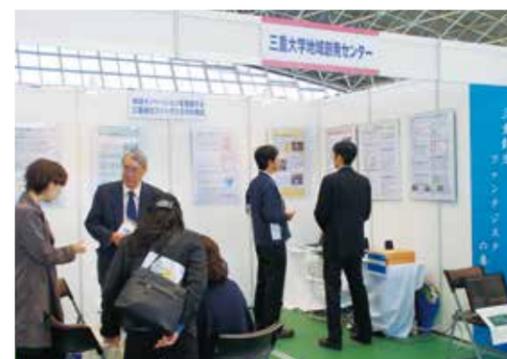
- ◇林業ビデオ教材～林業の未来を考える～
- ◇農業ビデオ教材～農業の未来を考える～
- ◇水産業ビデオ教材～水産業の未来を考える～



3本のビデオ教材一覧

4-8. みえリーディング産業展(注釈16)

平成28年11月11日(金)、12日(土)に開催した「みえリーディング産業展」に「三重創生ファンタジスタ養成事業」を周知するため参加した。事業協働機関である、株式会社アーリーバード、辻製油株式会社、株式会社マサグループ本社、三重県農業協同組合中央会、株式会社三重ティールオーも参加した。



みえリーディング産業展の様子

4-9. 三重大学/皇學館大学共催FD(注釈17)

平成29年3月16日(木)皇學館大学において『学外学習における学習成果の評価・認証～形成的評価指標(ルーブリック)の実践的活用～』をテーマに「三重大学/皇學館大学共催FD」を開催した。FDでは、全国の先進的な高等教育機関の事例を交え、三重の高等教育機関におけるルーブリックの可能性に関して、意見交換を実施した。

ポスター



FDの様子

参加者の声

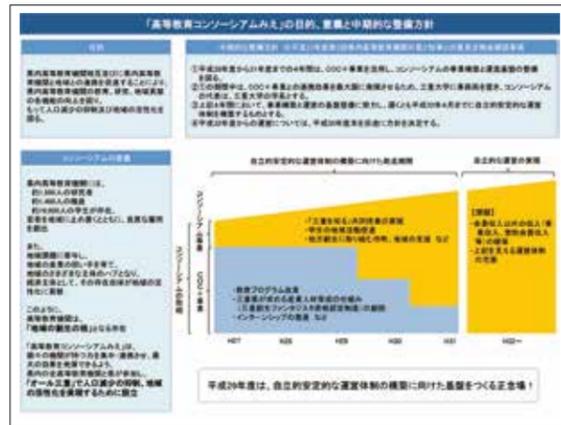
- ◆人的・経済的資源の乏しい地方の小規模私大において、初年次教育でSelfDialogueBasicsのクリニク的なことを実施していくための担当教員のスキルアップの研修等も不可欠のだろうと感じた。(四日市大学教員)
- ◆卒業論文の評価をする際に、いちおう基準(ルーブリック風の)はあったのですが、どうしても主観的なものが入ってきて、うまく利用できないといった感覚がありました。今日の講演をおうかがいして、その原因が「十分な」といった表現による基準であったことが、わかりました。(皇學館大学教員)

4-10. 高等教育コンソーシアムみえ (注釈18)

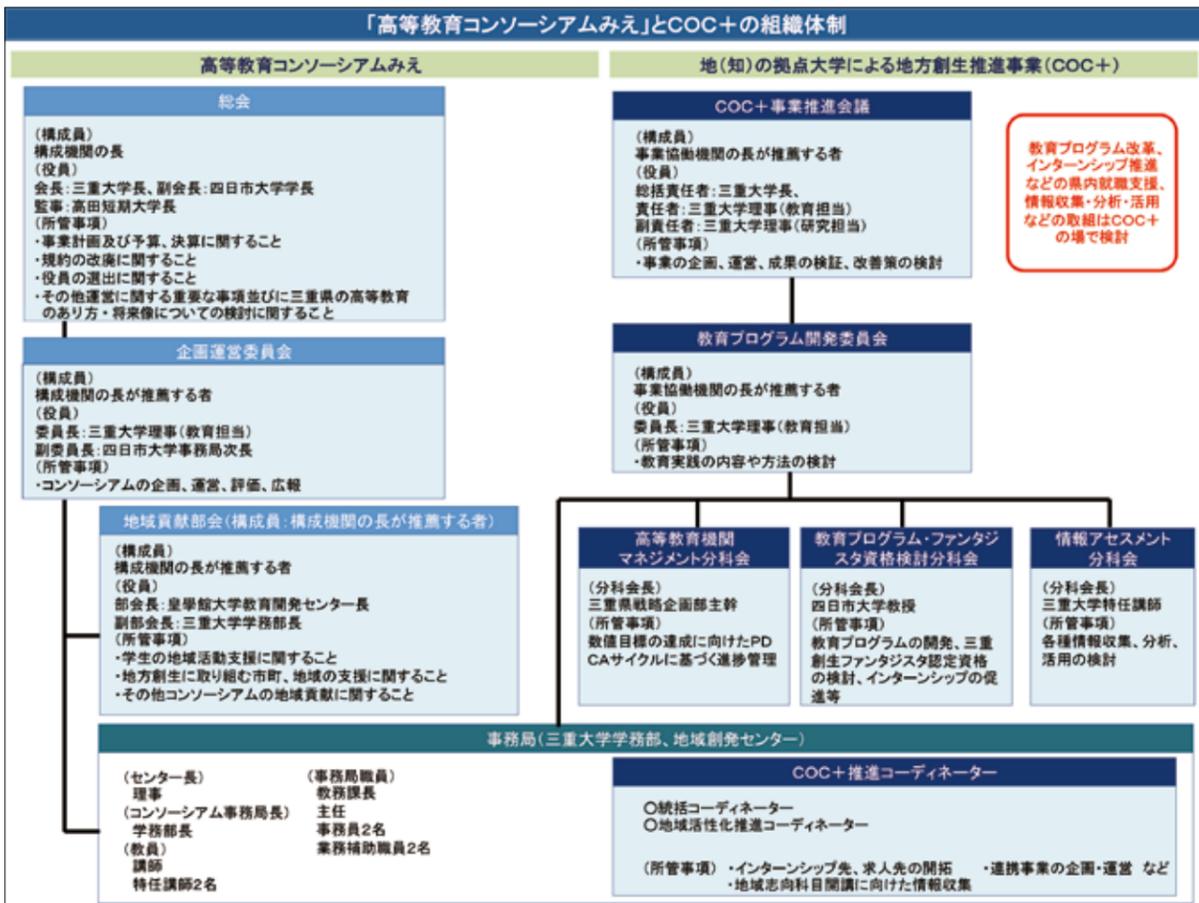
COC+補助期間終了後も事業を継続できるよう、高等教育コンソーシアムみえに業務を移管し、地域人材の養成や地域課題の解決に向け推進する。



「高等教育コンソーシアムみえ」協定締結式の様子



「高等教育コンソーシアムみえ」の目的



「高等教育コンソーシアムみえ」組織体制

4-11. 県内就職と地域活動に関する意識調査アンケート(注釈19)

就職を意識する県内高等教育機関の卒業年次1年前の学生を対象に、就職や地域活動に関する学生意識調査を行い、標本数4,362回、収数3,146、回収率72.1%であった。

ダウンロード URL : <http://conso-mie.jp/worksH28.html>

4-12. 社長セミナー (注釈20)

三重大学長が訪問した県内企業を主な対象とする「社長セミナー」を平成28年度に開催した。16企業を招き、学生参加人数は各回約30名程度(最大50名程度)であった。その中で、事業協働機関である辻製油株式会社、万協製薬株式会社、株式会社医用工学研究所、株式会社マスマグループの講演も開催された。



第3部

これまでの成果と課題

5.これまでの成果と課題

5-1. これまでの成果

平成27年度のCOC+実施体制の構築、平成28年度の教育プログラムの展開等、これまでの様々な内容の実施を通して、一定程度の成果とともに、COC+事業の拡大と目標達成に向けてクリアすべきいくつかの成果や課題が浮かび上がってきた。平成29年度の発展的継続につなぐために、ここまでの成果と課題についてまとめる。

- (1) 三重創生ファンタジスタ資格教育プログラムの展開
 - ・三重大学における三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コースの創設（16・17ページ）
 - ・県内9高等教育機関における三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格プログラムの立ち上げ（27・28ページ）
- (2) 地域人材育成のための教育プログラムの拡充
 - ・三重創生ファンタジスタ養成に特化した5科目の構築（22～26ページ）
 - 三重を知ることに関心を置く、多数のゲストスピーカーが講演する授業科目の開設（2科目）
 - 現場での体験を通して学びを深めることに視点を置く、PBL型集中科目の開設（3科目）
- (3) 「高等教育コンソーシアムみえ」の設立と高等教育機関における単位互換（予定）
 - ・全高等教育機関が協働して調査を行った「県内就職と地域活動に関する意識調査アンケート」（39ページ）
 - ・全高等教育機関による単位互換制度の検討、構築（平成29年度締結予定）
- (4) 高等教育機関、企業、自治体との連携の拡大
 - ・教育プログラム開発委員会直下の3つの分科会、WGの開催（10ページ）
 - ・産学官が連携した教育プログラムの構築

5-2. これまでの課題

- (1) 5つの数値目標とその進捗
 - ・県内就職率の向上、インターンシップ倍増等への数値の反映
 - 第2分科会産学WGにて、県内企業の魅力の周知化やインターンシップの方策について検討。啓発チラシ等の出口戦略を平成29年度に注力する。
- (2) 三重創生ファンタジスタ資格の質保証
 - ・県内資格として認知される等インセンティブの創出
 - 教学WG及び産学WGにおいて、教育プログラムの質保証を行い、具体的なメリットを産業界へ提案していく。特に就職に強いインセンティブを持った上級資格を平成29年度に構築する予定である。
- (3) COC+事業における事業協働機関の拡充
 - ・事業協働機関の拡充
 - 第1分科会にて、事業協働機関の拡充について検討を行い、随時交渉を行う。三重県中小企業家同友会の加入の検討等、学生が就職活動をする際、県内企業（優良な中小零細）を選択するように工夫する。
- (4) インターンシップの拡充
 - ・三重大学内インターンシップの整理
 - 平成29年度に副学長（学生総合支援・インターンシップ担当）を配置し、学内のインターンシップ情報を集約したうえで、多種多様なインターンシップを学生に提供する。
 - ・全高等教育機関が参加できるインターンシップ授業の構築
 - 平成29年度に三重創生ファンタジスタ養成に特化した課題解決型のインターンシップ授業を構築し、主体性、協調性、規律性などを涵養する。

6.外部評価委員会及び内部評価委員会

6-1. 平成27年度外部評価委員会自己評価資料

平成28年5月20日（金）外部評価委員会を開催するにあたって、平成27年度におけるCOC+の実施状況について自己評価を行った。

評価対象年度：平成27年度

総合評価（自己評価） **III 計画を十分に実施している**

【評価基準】

IV 計画を上回って実施している III 計画を十分に実施している

II 計画を十分に実施していない I 計画を実施していない

分野	項目	年度計画	実績	成果	自己評価
地域連携	事業実施体制の整備に関すること	「三重大学地域創発センター」の設置と関係諸規則の整備を行う。	○学則の学内共同教育研究施設に三重大学地域創発センターを明記するとともに、同センター規程及び同センター運営委員会規程を平成27年10月30日付け役員会にて承認し、同年11月1日付けで、三重大学地域創発センターを設置した。(資料編資料1～5)	・本事業「地域イノベーションを推進する三重創生ファンタジスタの養成」における推進母体であり、専任教員、推進コーディネーターが所属する実施組織であるとともに事業の事務局を務める組織である「三重大学地域創発センター」に関する規程の整備を行い、平成27年11月1日付けで設置した。	III
	推進コーディネーターの選出と雇用手続きの準備を行う。	○推進コーディネーターの職種は非常勤研究員とし、三重大学非常勤職員就業規則に「地域活性化推進コーディネーター」の職名を加えた。(資料編資料6)	○三重県の5区域に配置する推進コーディネーターのリーダーとなる統括コーディネーターを平成27年11月1日付けで採用すべく採用手続きを行った。(資料編資料8)	・地域創発センターの設置により、同センター運営委員会において「三重創生ファンタジスタ」資格認定副専攻コースの全学による検討を進めることができた。	III
	「三重大学地域創発センター」事務室の整備を行う。	○三重大学地域創発センター設置に合わせ、本学施設整備委員会の承認の基本学総合研究棟II3階に同センター事務室のスペースを確保した。(資料編資料10)	○地域創発センター事務室の什器類等の整備と平成28年1月1日付けで採用する同センター推進コーディネーター及び専任教員が速やかにCOC+事業の活動に着手できるための環境整備(什器類、電子計算機、プロジェクター等)を行った。(資料編資料11)	・地域創発センターの設置に伴い、11～12月に掛けて新しく設置したセンター事務室の什器類や電子計算機、プロジェクター等の環境整備を行ったことで、1月1日付けで採用した専任教員及び5名の推進コーディネーターが打合せや会議を行うことができ、スムーズに事業活動を開始することができた。	III
運営	事業の推進に関すること	全ての事業協働機関による全体会議を開催する。	○11月11日(水)に、全ての事業協働機関(県下13の高等教育機関、三重県、20の企業及び企業連合体)による全体会議を開催した。(資料編資料12～14)	・11月11日(水)に、全ての事業協働機関(県下13の高等教育機関、三重県、20の企業及び企業連合体)による全体会議を開催し、事業の目的及び概要、事業協働機関における役割、締結する協定書(案)の確認を行い理解の共有を図るとともに、事業実施体制の確立のため、COC+事業推進会議及び教育プログラム開発委員会の構成員を決定し、事業計画(案)について協議することができた。	III
	三重大学地域創発センター運営委員会を随時開催する。	○地域創発センター運営委員会を、11月～3月の間に計7回開催した。(資料編資料15)	○推進コーディネーター会議を1月～3月の間に計6回開催した。(資料編資料16)	・地域創発センター運営委員会においては、教員及び地域活性化推進コーディネーターの採用、教育プログラムにおける資格認定副専攻コースの在り方、スタートアップセミナーの構成、インターンシップ科目の単位化、ビデオ教材の作成、履修案内パンフレットの作成やキックオフシンポジウムの開催、ホームページのコンテンツ、データベースの構築等々について議論を重ね、継続審議事項はあるものの、実施等に結びつけることができた。	III
	先進取組大学等への調査を行う。	○地域活性化推進コーディネーター等によるCOC及びCOC+採択事業についての調査のため、開催されたシンポジウムや全国シンポジウムに参加した。(資料編資料16)	○地域活性化推進コーディネーター等によるCOC及びCOC+採択事業についての調査のため、開催されたシンポジウムや全国シンポジウムに参加した。(資料編資料16)	・COC事業及びCOC+事業を通じて初めて採択された事業であるため、先進取組大学等について調査することは、事業内容、実施体制、事業運用等において非常に参考となり、高知大学での全国シンポジウム参加による交流や、岐阜大学、京都工芸繊維大学でのCOC+キックオフフォーラム参加、山形大学COCコーディネーターの来訪による意見交換等によりコーディネーター間のネットワークが徐々に大きくなりつつある。	III
教育	キックオフシンポジウム及びCOC+事業推進会議等を開催する。	○平成28年1月23日(土)に、三重県庁講堂において、COC+キックオフシンポジウム(13:30～16:30)を開催した。(資料編資料17～19)	○平成28年1月23日(土)にCOC+事業推進会議及び教育プログラム開発委員会合同会議を開催し、「三重創生ファンタジスタ」資格認定副専攻コースに係る進捗状況の確認と28年度事業計画(案)について協議した。(資料編資料20～24)	・キックオフシンポジウムでは、学長の挨拶、三重県知事のビデオメッセージ、文科省大学改革推進室課長補佐の挨拶の後、前明治大学学長の納谷廣美氏による基調講演(演題：地方創生とCOC+事業の意義と期待)があり、最後に鈴鹿市長、南伊勢町長や現役大学生を含むパネルディスカッション(テーマ：三重県における地方創生を考える～これからの三重県が必要とする人材とは～)を行った。定員200名のところ270名の参加が得られ、地域創生に向けた三重県の課題、県内企業への就職の実態や思い、さらには高等教育機関の果たす役割の重要性等についての理解や三重県においてCOC+事業が推進されることの理解の共有化と事業の展開に向けた機運の高揚を図ることができた。	III
	教育プログラムの開発に関すること	「三重創生ファンタジスタ」資格認定副専攻コースの構築について検討する。	○三重大学地域創発センターを11月1日付けで設置し、同センター運営委員会において「三重創生ファンタジスタ」資格認定副専攻コースについて議論を重ね、1月23日(土)開催のCOC+事業推進会議及び教育プログラム開発委員会合同会議に諮った上で、更に詳細をセンター運営委員会で検討を重ねた。(資料編資料15、24)	・「三重創生ファンタジスタ」資格認定副専攻コースは、まず三重大学で開始することから、地域創発センター運営委員会において議論し、3つの授業科目群(地域志向科目群、地域実践交流科目群、地域イノベーション学科目群)の候補科目を教養教育機構及び各学部から提出し、そのうち、対象学生となる28年度新入生が履修する地域志向科目群の授業科目を選定した。	III
	教育プログラム開発委員会の開催と各分科会及びCOC+参加校において事業実施を行う。	○1月23日(土)にCOC+事業推進会議及び教育プログラム開発委員会合同会議を開催し、「三重創生ファンタジスタ」資格認定副専攻コースに係る進捗状況の確認と28年度事業計画(案)について協議した。(資料編資料24、23)	○1月23日(土)にCOC+事業推進会議及び教育プログラム開発委員会合同会議を開催し、「三重創生ファンタジスタ」資格認定副専攻コースに係る進捗状況の確認と28年度事業計画(案)について協議した。(資料編資料24、23)	・1月23日(土)にCOC+事業推進会議及び教育プログラム開発委員会合同会議を開催し、会議・委員会の役割の確認、「三重創生ファンタジスタ」資格認定副専攻コースの内容、平成28年度事業計画(案)等について諮ることができた。また、COC+参加校である高等教育機関においては、教育プログラムの検討や、平成28年度におけるCOC+に関する共同開催事業の検討を行った。	III
教育プログラムの実施に関すること	※28年度より「三重創生ファンタジスタ」資格認定副専攻コース実施				

分野	項目	年度計画	実績	成果	自己評価																																																																																																															
地域連携	地域との連携に関すること	県内各地点に配置された推進コーディネーターが、各地域において地域創生に向けた活動を行う。	○県内の5地域(北勢、中勢、伊勢、伊勢・志摩、東紀州)に推進コーディネーターを配置し、県内高等教育機関、自治体、企業等と地域の課題について、多面的な視点からの対話を開始した。(資料編資料16)	・採用した推進コーディネーターは、これまで県の行政関係や企業のなかで中心的に活躍してきた方々でもあり、築かれてきた関係を基に、自治体や企業を訪問し、各機関や団体との橋渡し、地域や企業のニーズの掘り起こしを開始している。また、事業協働機関である高等教育機関を訪問し、各機関の実情、特徴を把握し、その情報を基に、インターンシップの受入企業の開拓及び学生とのマッチングや地域との交流活動等、COC+事業に関わる活動やイベントを企画するためのシーズを探っている。	III																																																																																																															
	事業の情報発信に関すること	補助事業のHPの立上げ作業と就職・インターンシップデータベース等の構築に従事する。	○COC+事業「地域イノベーションを推進する三重創生ファンタジスタの養成」のHP及びCOC+の事業実施母体である「三重大学地域創発センター」のHPを立ち上げた。また、就職やインターンシップデータベース等を蓄積するデータベースを構築した。(事業のHP (http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/)及び地域創発センターのHP (http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiki/)を確認、資料編資料25)	・COC+事業全体のHP及びCOC+事業の事務局でもある三重大学地域創発センターのHPを立ち上げたことにより、今後の事業の推進及び進捗状況、成果等について発信できる体制が整った。また、就職及びインターンシップに関するデータベースの構築により、推進コーディネーターが企業データや求人情報を入手し、事業協働機関全ての学生がアカウント登録すれば利用できる体制が整った。	III																																																																																																															
数値目標	数値目標の達成状況			(数値目標)	III																																																																																																															
				<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成31年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業協働地域就職率</td> <td>49%</td> <td>50%</td> <td>51%</td> <td>53%</td> <td>56%</td> <td>59%</td> </tr> <tr> <td>うち三重大学</td> <td>33%</td> <td>34%</td> <td>35%</td> <td>37%</td> <td>40%</td> <td>43%</td> </tr> <tr> <td>事業協働機関へのインターンシップ参加者数</td> <td>75人</td> <td>80人</td> <td>90人</td> <td>110人</td> <td>130人</td> <td>150人</td> </tr> <tr> <td>うち三重大学</td> <td>47人</td> <td>50人</td> <td>90人</td> <td>75人</td> <td>90人</td> <td>110人</td> </tr> <tr> <td>事業協働機関からの寄付講座数</td> <td>3講座</td> <td>3講座</td> <td>4講座</td> <td>4講座</td> <td>6講座</td> <td>6講座</td> </tr> <tr> <td>うち三重大学</td> <td>3講座</td> <td>3講座</td> <td>4講座</td> <td>4講座</td> <td>6講座</td> <td>6講座</td> </tr> <tr> <td>事業協働機関雇用創出数</td> <td>0人</td> <td>1人</td> <td>3人</td> <td>6人</td> <td>10人</td> <td>10人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成31年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業協働地域就職率</td> <td>49%</td> <td>48.9%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>うち三重大学</td> <td>33%</td> <td>32.1%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>事業協働機関へのインターンシップ参加者数</td> <td>75人</td> <td>63人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>うち三重大学</td> <td>47人</td> <td>52人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>事業協働機関からの寄付講座数</td> <td>3講座</td> <td>3講座</td> <td>講座</td> <td>講座</td> <td>講座</td> <td>講座</td> </tr> <tr> <td>うち三重大学</td> <td>3講座</td> <td>3講座</td> <td>講座</td> <td>講座</td> <td>講座</td> <td>講座</td> </tr> <tr> <td>事業協働機関雇用創出数</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※事業協働地域就職率及び事業協働機関へのインターンシップ参加者数の内訳は次ページ参照</p>		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	事業協働地域就職率	49%	50%	51%	53%	56%	59%	うち三重大学	33%	34%	35%	37%	40%	43%	事業協働機関へのインターンシップ参加者数	75人	80人	90人	110人	130人	150人	うち三重大学	47人	50人	90人	75人	90人	110人	事業協働機関からの寄付講座数	3講座	3講座	4講座	4講座	6講座	6講座	うち三重大学	3講座	3講座	4講座	4講座	6講座	6講座	事業協働機関雇用創出数	0人	1人	3人	6人	10人	10人		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	事業協働地域就職率	49%	48.9%	%	%	%	%	うち三重大学	33%	32.1%	%	%	%	%	事業協働機関へのインターンシップ参加者数	75人	63人	人	人	人	人	うち三重大学	47人	52人	人	人	人	人	事業協働機関からの寄付講座数	3講座	3講座	講座	講座	講座	講座	うち三重大学	3講座	3講座	講座	講座	講座	講座	事業協働機関雇用創出数	0人	0人	人	人	人	人
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度																																																																																																														
事業協働地域就職率	49%	50%	51%	53%	56%	59%																																																																																																														
うち三重大学	33%	34%	35%	37%	40%	43%																																																																																																														
事業協働機関へのインターンシップ参加者数	75人	80人	90人	110人	130人	150人																																																																																																														
うち三重大学	47人	50人	90人	75人	90人	110人																																																																																																														
事業協働機関からの寄付講座数	3講座	3講座	4講座	4講座	6講座	6講座																																																																																																														
うち三重大学	3講座	3講座	4講座	4講座	6講座	6講座																																																																																																														
事業協働機関雇用創出数	0人	1人	3人	6人	10人	10人																																																																																																														
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度																																																																																																														
事業協働地域就職率	49%	48.9%	%	%	%	%																																																																																																														
うち三重大学	33%	32.1%	%	%	%	%																																																																																																														
事業協働機関へのインターンシップ参加者数	75人	63人	人	人	人	人																																																																																																														
うち三重大学	47人	52人	人	人	人	人																																																																																																														
事業協働機関からの寄付講座数	3講座	3講座	講座	講座	講座	講座																																																																																																														
うち三重大学	3講座	3講座	講座	講座	講座	講座																																																																																																														
事業協働機関雇用創出数	0人	0人	人	人	人	人																																																																																																														

COC+参加校県内就職者数 (平成28年4月1日時点)

大学等名	卒業生数(A)	就職者数(B)	うち県内就職者数(C)	比率(C/B)
三重大学	1,403人	870人	279人	32.1%
四日市大学	159人	117人	44人	37.6%
皇學館大学	666人	551人	356人	64.6%
鈴鹿大学	109人	73人	35人	47.9%
鈴鹿医療科学大学	456人	385人	162人	42.1%
三重県立看護大学	92人	88人	44人	50.0%
四日市看護医療大学	112人	111人	62人	55.9%
鈴鹿大学短期大学部	119人	98人	94人	95.9%
三重短期大学	304人	208人	127人	61.1%
高田短期大学	218人	210人	209人	99.5%
鈴鹿工業高等専門学校	228人	120人	36人	30.0%
鳥羽商船高等専門学校	106人	83人	4人	4.8%
近畿大学工業高等専門学校	145人	100人	23人	23.0%
合計	4,117人	3,014人	1,475人	48.9%

(参考：平成26年度)

大学等名	卒業生数(A)	就職者数(B)	うち県内就職者数(C)	比率(C/B)
三重大学	1,392人	874人	292人	33.4%
四日市大学	194人	125人	53人	42.4%
皇學館大学	688人	521人	307人	58.9%
鈴鹿大学	107人	80人	37人	46.3%
鈴鹿医療科学大学	445人	385人	160人	41.6%
三重県立看護大学	94人	93人	48人	51.6%
四日市看護医療大学	113人	104人	68人	65.4%
鈴鹿大学短期大学部	125人	108人	102人	94.4%
三重短期大学	301人	191人	125人	65.4%
高田短期大学	240人	230人	226人	98.3%
鈴鹿工業高等専門学校	219人	132人	32人	24.2%
鳥羽商船高等専門学校	110人	89人	13人	14.6%
近畿大学工業高等専門学校	111人	84人	19人	22.6%
合計	4,139人	3,016人	1,482人	49.1%

数値目標達成状況の内訳

平成27年度事業協働機関へのインターンシップ実績一覧

	鈴鹿医療	県立看護	四日市看護	鈴鹿短期大学部	三重短大	高田短大	鈴鹿高等	鳥羽商船	近大高等	三重大	計
(株)アーリーバード											0
ICDAホールディングス(株)											0
伊藤工機(株)											0
(株)医用工学研究所											0
(有)オズ海島遊民くらぶ											2
(株)ZTV											0
中外医薬生産(株)											1
辻製油(株)											2
日本土建(株)											0
速水林業											0
万協製菓(株)											1
(株)光機械製作所							1				2
(株)百五銀行											8
(株)百五経済研究所											1
(株)マサグループ							1				3
三重県商工会議所連合会											0
三重県商工会連合会											0
三重県農業協同組合中央会											0
(株)三重ティーエルオー											0
三重テレビ放送(株)											1
三重県庁											31
自学へのインターンシップ											0
計	0	7	0	0	0	0	1	2	0	1	0
参考 平成26年度	1	20	0	0	0	0	0	1	0	6	0
											47

6-2. 平成27年度外部評価委員会評価資料

外部評価委員会における総合評価の結果、平成27年度COC+実施状況については、「Ⅲ・計画を十分に実施している」であった。

総合評価	総合	委員長	委員A
	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
	平成 27年度はスタートアップの年で短期間の取組であったが概ね計画通りに進んでおり、今後の事業展開の体制や合意の基盤が形成されたことは高く評価できる。とくに、計画には記されていないが、学長による企業・自治体訪問のトップセールスは積極的に評価すべきである。学長のリーダーシップのもとに学則に「地域」視点を加えた改正を行うなど、大学が本事業を契機に変貌する方向性を共有しながら、事業推進の関係者により、構想から計画実施、そのための組織等の基盤形成が着実に進められている。本事業はキックオフシンポジウムにおいても確認されたように、自治体や産業界からも熱い期待を寄せられており、事業協働機関の負担についての理解に基づきながら地域の課題である雇用創出の3分野についての具体的な成果にも注目したい。教育プログラム開発は、その要となる取組であり資格認定副専攻コースとして制度化された意義は大きく、とくに、ビデオ制作はそのテーマ設定から活用までの過程を通して、教員、地域関係者、学生を結びつける役割を果たす取組として特徴的であり、各取組を有機的に関係づける取組となり得る。今後は、事業協働機関の役割、負担の在り方、大学コンソーシアムへ向けた合意形成、さらにはコーディネータの活躍、戦略的な広報等について、平成27年度構築の体制が組織的に機能するように必要な修正を加えながら進められることを期待する。	平成 27年度はスタートアップの年で短期間の取組であったにもかかわらず、多数の関係機関や学内関係者との手間のかかる調整を経て今後の事業展開の体制や合意の基盤が形成されたことは高く評価できます。学長のリーダーシップのもとに関係者の皆様が安心して協力できる関係が形成されていることが第一の要因として考えられます。さらに、知事をはじめとする行政のみならず、産業界の関係者からも熱い期待を寄せられていることは、本事業の推進土壌となるもので、着実に本事業を展開できる第二の要因となると考えます。教育プログラム開発において、スタートアップセミナーを基盤としながら、地域課題を教員が調査して関係者との対談等によりビデオ化するという取組は、ともすると事業の各取組が個々に進められ拡散しがちな点を克服し、各取組を関係づけて編み上げるという点に特徴があると考えます。これは、体制の構築や事業の理念の共有等が効果的に実施されているためで、第三の要因となるものと考えます。COC+は、採択大学と参加大学の関係を整理することが難しい事業となっていると推察します。一方、将来的にはコンソーシアムでの事業継続を想定すると、早期段階からコンソーシアムとして学生をどのように育成できるのかという検討が必要となると考えられます。今後の合同FDや熟議を通して、コンソーシアムの意義についても実質的な議論が進められることを期待しています。	○「地域イノベーションを推進する三重創生ファンタジスタ」事業は県にとって必要不可欠であり、これを支えるものにするべきである。○この事業を推進している関係者は、構想から実行事業計画、その推進と着実に歩を進めている。○数値目標は、自ら定めた以上最大の努力をすべきであるが、5年間のタームの中での評価を考え、これからの熟慮と努力に期待したい。

運営	総合	委員長	委員A
事業実施体制の整備に関すること	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
事業の推進に関すること	Ⅲ	Ⅳ	Ⅲ
	○計画に基づいて「三重大学地域創発センター」の設置及び実施体制の整備を行い事業を運営、遂行している。○短期間にもかかわらず採用人事や関係会議等も着実に実施されており、その努力を評価する。○学則に「地域」の視点を加えた改正を行うなど、本プログラムを契機として、地域に貢献する大学として飛躍しようとする意気込みが感じられる。△先進事例調査の成果がどのように本事業に反映されているのかを確認できるようにすべきである。△長期的、俯瞰的視野から、戦略性を持ちつつ各取組の関連を再整理して事業が推進されることが期待する。	事業実施体制の要となる「三重大学地域創発センター」を早期に設置し、推進コーディネータや専任教員等の調整に時間を要すると想定される人事も適確に実行されており、初年度の取組が短期間にも関わらず着実な成果をあげていると判断されました。本事業における関係機関は多数であるため会議招集や合意形成には手間と時間を要すると推察されますが、これらを着実に進め初期段階の活動を具現化できています。一方、学内における会議を含む合意形成は、事業の推進力として不可欠であるが学長のリーダーシップの下にセンター運営委員会の開催等、全学的に事業に取り組む状況が確認できる点は高く評価できると思います。	短期的に、体制を整備した。努力を評価する。キックオフシンポは大変盛り上がりがあった。他の事業についても着実に推進している。

教育	総合	委員長	委員A
教育プログラムの開発に関すること	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
教育プログラムの実施に関すること	—	—	Ⅲ
	○計画に基づいて、教育プログラムを資格認定副専攻コースとして制度化して開発するなど、着実に進んでいる。○追加事業としてビデオ教材が制作されており、その実績と実行力は優れている。△育成人材の能力目標を、地域関係者との丁寧な対話を通して合意できるようにすることを期待する。※「教育プログラムの実施に関すること」は、平成 27年度が準備期間であるため評価しないこととした。	教育プログラムを資格認定の副専攻コースとして制度的に位置づけ開発に着手されています。とくに、スタートアップセミナーは全学生が履修する必須科目として位置づけられ、その科目における地域課題に関する探究は大きな影響を学生に与えるものと期待されます。一方、教育プログラムの開発に際して、育成人材の能力に関する地域関係者との協議による丁寧な目標設定は、関係者の正当な評判を得るために重要な要件になると考えられることから能力目標の合意形成が進展することを期待します。教育プログラムの実施は、平成 28年度からとの計画されており、平成 27年度は準備期間であるため、実施に関する評価は割愛しました。もしも必須ということでしたら、計画どおりとしてⅢとなります。	「三重創生ファンタジスタ」の資格認定副専攻コースの検討を重ね、授業科目の選定などした。又、科目選定に資する、あるいは体系的なパッケージを用意する方法など、実効的体系的な学びを構成するための検討を行った。

地域連携・情報発信	総合	委員長	委員A
地域との連携に関すること	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
事業の情報発信に関すること	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
	○各種会合、会議の開催を通して自治体や企業と役割分担を確認するとともに協力要請を行うなど、概ね計画どおりに進んでいる。○推進コーディネータや教育らによる関係機関への訪問や調査活動の開始は、平成 28年度計画に先行して協働地域における問題や課題の抽出・把握に努めるものであり評価できる。○スタートアップセミナーのビデオ制作は、地域と学生・教員等の行動的連携を促進する取組として興味深い。△HPやマスメディアを通じて一定の広報が進められるが、統一した戦略性の視点から事業にふさわしい情報発信のあり方が検討されることを期待する。○データベース構築も順調であり、基本情報についての収集、蓄積が進められている。蓄積内容については、大学と地域が協働して学生の地域への就職につながるような特徴のある情報提供が期待される。	地域との連携において、スタートアップセミナーのビデオ制作は興味ある取組だと思えます。これを発展させると推進コーディネータの方が地域と教員を媒介してビデオ制作が広がることが可能となり、それを活用した授業において関心を深める学生が現れるという成果につながるものが期待されます。事業の情報発信は、地域の関心が高い時期に積極的に展開されることが効果的と考えられ、HPの立ち上げ、メディアによる報道等が着実に進められていると判断されます。	地域創生のための推進コーディネータを採用、県内5地域に配置した。コーディネータは、訪問や地域ニーズの掘り起こしを開始している。又、ビデオ教材の作成、センターのHPの立ち上げなど努力している。

数値目標	総合	委員長	委員A
数値目標の達成状況	—	—	Ⅲ
	※数値目標の達成状況については、評価しないこととした。平成 27年度の各目標数値は、事業取組以前の状況を示すに留まり、事業成果を反映するものとの判断することは困難である。	数値目標は設定されていますが、平成 27年度の数値が本事業による成果を反映するものとは判断しにくく、取組以前の状況を示すに留まっていると考えます。このため、本項目についての評価は行わないことが適切と判断します。	○27年度は26年に対し概しい。数値目標に対しては地域就職率、インターンシップ参加者数(三重大学)分と「事業協働機関からの寄付講座数のみ」という状況であり、「事業協働地域就職率」及び「事業協働機関へのインターンシップ参加者数」においては前年度よりも減少している。平成 28年度秋に事業対象者(大学生)に向けたアンケート調査をCOC+参加校にて実施し、課題把握に努めるとの説明を受け、確認しているが、それまで放置することなく、早急に対応できるところから対応(例えば、平成 27年度取組みについて検証し、課題抽出と今後に向けた対策を協議するなど)していただき、平成 28年度事業に反映していただきたいと願う。「三重創生ファンタジスタ」育成は、平成 28年度から始まるとはいえず、すでに事業はスタートしている中で、数値目標にとらわれ近視眼的になる必要はないが、目標に向けて1年1年を大事にして、実績を少しずつ積み重ねていっていただければと期待している。

委員B	委員C
Ⅲ	Ⅲ
概ね、計画通りに進んでいるものとする。本事業において、各高等教育機関による人材育成と受け皿となる地域との連携は両輪である。人と人、人と組織、地域をつなぐ取組みは、枠組みの構築だけでは無理があり、そこに経験豊かな推進コーディネーターによる細やかな「FACE TO FACE」の取組みが活きてくる。そのような人材の配置を感じさせる実施体制が整備され、地域との連携に向け、積極的に1年目から地域へと足を運んでいることは、事業にとってアドバンテージであり、強みであると考えます。但し、人(個人)に依るということは、個人の持つ知識、経験、能力、時間に依るということでもあるので、そのことに留意し、組織として最大限のパフォーマンスが得られるような仕組みづくりやフォローを心がけていただきたい。近視眼的に、単年度の数値目標にとらわれることなく、5年後に向かって柔軟に進めていっていただければと考える一方で、地に足を付け、具体的な目標に向けて1年1年を大事に、実績を少しずつ積み重ねていっていただければと期待している。本取組みで特筆すべきは、三重大学長自らがトップセールスとして地域、企業に赴き、COC+を含めた大学のプロモーションを行っていることであり、事業の一つの推進力として、その効果に注目している。	「計画」に対する「実績」や「成果」、それに対する「自己評価」となっているが、「計画外」に実施した事項もたくさんあるのではないかと。例えば、計画には、学長の企業・自治体訪問という事項はないが、実際には27年度も積極的に動いている。にも拘わらず、その部分の評価がなされていないのは如何か。その後のフォローは永野先生が走っているが28年度からのスタートなので、既に学長が訪問した27年度の実績について記載して頂きたい。なお、学長の企業訪問に限らず、他の計画外の実施事項についても、もしあれば記載して頂きたい。また、県内の中小企業には、自動車の下請企業でも技術力のあるところは、医療・介護分野や航空機分野など次世代産業への参入を試みているチャレンジングな会社もある。しかし、そういう会社は、知らない学生から見ると、その辺りの町工場と変わらず、チャレンジングな取組をしている企業には見えないケースが多い。長年の仕事上の経験からそうなのだが、職人体質の社員でPR手が多い。会社のPRということをしたことがない社員が多く、そういう会社の売り込みのための人材開発・意識改革も必要である。しかし、そういう企業向けの人材開発(社員教育)まで大学で担うのは難しいので、是非、県庁で予算化して取組んで頂きたい。COC+の業務全体については、殆どの作業負担が三重に偏っているように見え、他の教育機関だけでなく、県庁にも役割分担して頂きたい。また、三重大学内でも特定の担当者の負担のみが大きく、コーディネーターに一層の役割を担って頂きたい。

委員B	委員C
Ⅲ	Ⅲ
Ⅲ	Ⅱ
事業初年度であり、実質的には10月からのスタートということで、運営全体に時間的な余裕のなさを感じるものの、概ね計画に基づいて、「三重大学地域創発センター」の設置及び実施体制の整備を行い、事業を運営、遂行していると考えます。「事業実施体制の整備に関すること」については、学部及び大学院の学則に「地域」という視点を加えた改正を行うなど、本プログラム実施を大学発展の好機と捉え、地域に貢献する大学として飛躍しようとする意気込みが感じられる。また、「事業の推進に関すること」については、限られた時間の中で、ビデオ教材の作成などが追加事業として企画・実施される一方で、当初計画されていた「事業広報パンフレット」や「実務家教員として派遣等に関わる候補者リスト」の作成が、平成 28年度にずれ込むなど、事業推進にばらつきが見受けられ、推進における戦略が今一つ分りづらい。高等教育機関として、より良い教育プログラムを開発・実施したいという熱意や意欲、実質的な教育の枠組みを固めてから広報、周知したいという方向性は理解できるので、平成 28年度からは、長期的・俯瞰的視野に立つて、戦略性を持ちつつ事業の推進に取り組んでいただきたいと考えます。	先進事例調査の成果が殆ど見えない。高知大と京都工芸繊維大については報告書があるので、ある程度想像できるが、岐阜大・山形大はヒヤリングした内容の報告書がないので、成果が分からない。そもそも、これらの大学の何が先進的なのか分からず、調査先の選定理由が不明。山形大は来て頂いた意見交換をしたようだが、自己評価シートを見る限りでは、単に名刺交換をしただけという印象。何の成果もないときに、「ネットワークを構築した」という表現が使われるので、そのような評価をされないように、面談の内容をキチンと記録するように要望したい。

委員B	委員C
Ⅳ	Ⅲ
—	Ⅲ
「教育」に関しては、準備期間が6ヶ月という短期間にも関わらず、概ね計画に基づき、平成 28年度よりスタートする「三重創生ファンタジスタ資格」とその教育プログラムの内容を策定し、学生募集パンフレットを作成していることに加え、追加事業として授業で使用するビデオ教材の制作を行うなど、その実績と実行力は優れている。しかし、教育プログラムの開発、実施に関しては、作成して終了するものではなく、今後も教育の質の向上を目指す意味で、独自にPDCAを回していく枠組みが必要であろうと推察されるので、その構築は新年度以降に期待したい。	事業の目的は、卒業生の県内就職率を上げることである。そのために教育プログラムの中には、単に「三重県のことをもっとよく知る」という漠然とした内容だけでなく、最近の三重県の産業史——特に「リマンショック以降——をよく理解する内容を取り入れることを勧めたい。地域を理解するだけでなく、グローバルな視点で見ることでも、ものづくり企業だけでなく、広い視野で教育できるような教育プログラムの開発に取組んで頂きたい。

委員B	委員C
Ⅲ	Ⅱ
Ⅱ	Ⅲ
「地域との連携に関すること」については、事業協働地域全体計画に基づき、COC+関係各機関の全体会合(11/11)、事業推進会議(1/23)、教育プログラム開発委員会(1/23)、企業代表者とのCOC+事業立ち上げ会合(1/23)を開催し、自治体や企業と役割分担を確認するとともに、協力要請を行うなど、概ね計画通りに進めている。また、推進コーディネータや教育らによる関係機関への訪問や地域の調査活動は、平成 28年度計画に先行して協働地域における問題や課題の抽出・把握に努めようとするものであり、地域との連携づくりを強く意識していることがうかがえる。その一方で、平成 27年度に計画していた実務家教員として派遣等に関わる候補者リスト作成が平成 28年度にずれ込むなど、こでも事業の推進にばらつきが見受けられるように感じる。「事業の情報発信に関すること」については、HPやマスメディアを通じて一定の広報がなされ、データベース構築も順調に進んでいる。概ね計画通りに進めていると考えるが、「事業広報パンフレット」作成が平成 28年度にずれ込むなど、広報に対する統一した戦略性が感じられない。「事業広報パンフレット」作成の必要性を含めて、本事業にふさわしい情報発信のあり方を検討していただきたい。	一部のコーディネーターを除いて、殆ど活動ができていないという印象。先進事例の情報収集についても、一部は、単なる物見遊山に終わっているとしか言えない。結果責任を問われるのを恐れて、積極的に動いていないように思われる。データベースの内容については、単なる就活用のデータ(社員●●人、新卒採用予定、インターンシップ受入状況 etc)だけでなく、先日の委員会でも出た「女性が働きやすい」、「子育て支援策の内容」のほか、どのような取組をしているか(医療・介護や航空・宇宙など次世代産業への参入、地域活性化への参画)など就活情報サイトとは違う内容を蓄積して欲しい。そのためには、コーディネーターにもっと動いてもらうだけでなく、学内にいる企業OBなどからの情報も参考にすべきと思われる。情報発信については、キックオフシンポジウムは、講演・パネルディスカッションともに高く評価。

委員B	委員C
Ⅱ	Ⅰ
平成 27年度は事業開始年度で、まだ取り組みが始まったばかりという状況ではあるものの、平成 27年度の数値目標を達成できたのは、わずかに「事業協働機関へのインターンシップ参加者数」のうち三重大学1分と「事業協働機関からの寄付講座数のみ」という状況であり、「事業協働地域就職率」及び「事業協働機関へのインターンシップ参加者数」においては前年度よりも減少している。平成 28年度秋に事業対象者(大学生)に向けたアンケート調査をCOC+参加校にて実施し、課題把握に努めるとの説明を受け、確認しているが、それまで放置することなく、早急に対応できるところから対応(例えば、平成 27年度取組みについて検証し、課題抽出と今後に向けた対策を協議するなど)していただき、平成 28年度事業に反映していただきたいと願う。「三重創生ファンタジスタ」育成は、平成 28年度から始まるとはいえず、すでに事業はスタートしている中で、数値目標にとらわれ近視眼的になる必要はないが、目標に向けて1年1年を大事にして、実績を少しずつ積み重ねていっていただければと期待している。	数値目標を達成するための動きが甘い。就職の1メモ希望先毎に、今時点での確度の高い数値を入れて、目標上乗せ分をどうするか票読みを議論しているか。また、せつこが学長が企業訪問をしているのに、その後のフォローをどれだけているかの説明が欲しい。

6-3. 平成28年度内部評価委員会

平成28年度のCOC+実施状況について、内部評価委員会を組織し、平成29年1月30日(月)に開催した。内部評価委員会委員には、①COC+事業責任者②第1分科会長③第2分科会長④第3分科会長を構成員とし、COC+推進に向け詳細を検討する各分科会の検討状況を共有し、評価、分析及び課題発見を行った。

<p>地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+) 内部評価委員会 議事概要</p> <p>日 時：平成29年1月30日(月) 16:30~18:30</p> <p>場 所：三重大学総合研究棟B-22期 第5会議室</p> <p>出席者：山本(三重大学・COC+事業責任者) 森(三重県・第1分科会長)、小林(四日市大学・第2分科会長)、本野(三重大学・第3分科会長)</p> <p>傍聴者：中興(三重県)、中島、天田、矢田(三重大学)</p> <p>1 事業責任者挨拶 委員長より、内部評価委員会開催にあたっての挨拶があった。</p> <p>2 内部評価委員会委員の紹介 委員長より、資料1に基づき、委員である各分科会長の紹介があった。</p> <p>3 事業の内部評価の実施について 委員長より、COC+事業の円滑な事業推進を行うため、内部評価委員会を開催する旨説明があり、内部評価委員会の流れについて確認された。</p> <p>4 各分科会長による実施状況の報告について(各分科会長より) 各分科会長より、資料2に基づき、各分科会の進捗状況について報告があった。</p> <p><第1分科会(高等教育機関マニフェスト分科会)> 分科会長より、第1分科会の進捗状況について以下の説明があった。</p> <p>○この分科会では、数値目標を達成するため、数値実績を把握し、達成に向けた方策について検討する旨確認された。</p> <p>○県内就職率を10%上げる目標について、平成27年度実績は達成であったが、その原因を分析する中で、県内入学率が高まれば県内への就職率も高まるのではないかという仮説のもと、平成27年度卒業した学生における、4年前の入学時の県内入学率を対比させて分析し、バラバラに数値が動くかどうかを調査した。結果、各高等教育機関によって数値の変動はバラバラであり、別途対策を検討する必要があることが確認された。</p> <p>○各高等教育機関で県内就職率が上がったあるいは下がった理由を自己分析した。</p> <p>○高等教育機関によっては、県の補助事業(県政COC等)を用いて、学生をマッチングさせる等細かく対応した結果、数値が上がったと思われるところもあるため、今後戦略について検討を促した。</p> <p>○事業協働機関による雇用創出の考え方は、県外等に左右される人員増減とすると事業運営とは異なる数値になってしまったため、新規事業(新規プロジェクト)等の雇用創出を数値として扱うこととした。</p> <p>○事業協働機関へのインターンシップ数を倍増させることについては、事業協働機関の数をそのまま考えたと数値目標達成は難しくなるため、事業協働機関を増やす方向性で考えている。但し、事業協働機関数を増やすと、平成26年度の基準値も変更することになり、目標値も変更することになるため、数値の変動がある事業協働機関と、インターンシップ先やCOC+事業に協力いただける、数値の変動がない事業協働機関に分けて検討することとした。</p> <p>○事業協働機関の代行課程の定義を三重大学の代行課程の定義に合わせると、数値を増やすことは難しくなるかもしれないため、COC+事業全体で考え、代行課程の定義を見直しを検討する旨確認された。</p> <p>○新入生と県内企業の若手社員が仕事をすることについて考える「あふキャリア」を平</p>	<p>成29年4月下旬頃に開催する予定であり、入学したばかりの意識の高い学生に対して実施する。</p> <p><第2分科会(教育プログラム・ファンタジスタ資格検討分科会)> 小林分科会長より、第2分科会の進捗状況について以下の説明があった。</p> <p>○県2分科会自体は1回の開催に留まっているが、分科会の直下にWGを2つ設置し、WG(工学、産学)を縦割りに実施して、そこで詳細を検討している。</p> <p>○全高等教育機関で出来る限り三重県産ファンタジスタを養成できるように検討する旨確認され、三重県産ファンタジスタ資格のアラシ分けを実施することが確認された。そのなかで、三重大学の「三重県産ファンタジスタ資格認定副専攻コース」は中級相当の資格と位置づけたが、三重大学以外の高等教育機関の中にはこれと同程度の科目等の設定が難しい学校もあるため、6単位以上の科目を修得することで認定される初級相当の資格である「三重県産ファンタジスタ(バーンツ)」を新たに設定し、各高等教育機関で養成することとした。また、一定の質を担保するため、養成する科目の審査を工学WGにて実施した。</p> <p>○現在三重大学のみが中級相当の資格を養成できることになっているが、平成29年度以降、他の複数の高等教育機関でも養成できるように、検討を進める。</p> <p>○三重県産ファンタジスタ(バーンツ)は、平成29年度より各専修大学、西日弁大学、鈴鹿大学、鈴鹿工業専門学校、四日市看護医療大学、三重県立看護大学、鈴鹿工業高等専門学校、鳥羽短期高等専門学校、三重短期大学の計9校で実施される。鈴鹿大学短期大学部、高師短期大学、近畿大学工業高等専門学校は、平成29年度の養成開始は見送る。</p> <p>○高等教育機関によって専門領域が異なるため、全高等教育機関で利用可能な、3つの分野に基づくPBL型(合宿形式)の集中講義3科目を共同で開設した。</p> <p>○三重県産ファンタジスタを養成するため、学生の成長の軌跡を可視化する専用ホームページを今後検討する。</p> <p>○県内に関心を持つ学生を育てることが第一であり、そのためには県内就職に有利になるような出口戦略が求められる。産業界にも三重県産ファンタジスタを広く認知してもらい、就職の際に何らかのインセンティブを設けてもらう等検討を行う。産学WGを別途実施している。</p> <p>○産学WGでは3つの分野の中小企業を中心に、各分野3~4企業で構成している。産学WGのメンバーで科目(イメージ：インターンシップ科目)を作ろうという話も出ている。平成30年度に向け、企業と作り上げた科目を複数開設することを目標にしている。</p> <p><第3分科会(情報システム分科会)> 本野分科会長より、第3分科会の進捗状況について以下の説明があった。</p> <p>○第3分科会自体は2回の開催に留まっているが分科会直下はWGを設置し、WGを複数実施する事で、詳細検討を進めている。</p> <p>○COC+のアウトカム目標である県内就職を10%アップ、インターンシップ数増加を実現するための「求人・インターンシップデータベース」の詳細について検討している。しかしながら、各高等教育機関によって、求人やインターンシップ情報の載り方がバラバラであり、当初の想定通り、一元的に学生情報を管理し、求人・インターンシップ情報を閲覧できるようにするのは困難である事が判明した。</p> <p>○そこで、求人・インターンシップデータベースの中身を求人情報に特化したものではなく、企業情報を紹介する事はどうかと考えている。しかしながら、分科会内でも様々な意見があり、現状まとまっていない。そこで、インターンシップ情報とそのインターン</p>
---	--

関連データおよび注釈

<p>シップ先企業情報をデータベース化してはどうかという事で、現時点では考えている。</p> <p>○事業協働機関へのインターンシップ倍増が数値目標になっているため、事業協働機関に対してインターンシップ受入の可否を確認しているが、受入できないと回答した企業に押しも、なぜ受入できないかの調査を深掘りしていく予定である。</p> <p>○COC+は、事業協働機関(団体、企業等)へのインターンシップは高等教育機関へのインターンシップも含まれるため、インターンシップを広く捉えるべきと考えている。</p> <p>○事業協働機関を活用する一方で、ゲストスピーカー等対応いただける方の情報をとりまとめた実務家教員データベースを作成している。</p> <p>○高等教育コンソーシアムみえの予算で、全高等教育機関に対して、学生意識調査を実施した。調査内容の詳細分析を行うあたり、WGにて分析内容を検討し、現在分析を進めている。</p> <p>○COC+専用HPの運用について、各ポイントの詳細を確認するとともに、イベントに参加した学生の反応点から改善を考慮した。その結果も確認している。今後はその学生が多くなるような視点でHPを構築したいと考えており、地域活動等の情報が学生に届くよう、広域発信(BNS等を活用)を検討するとともに、学生が作るページも作成したいと考えている。</p> <p>5 各分科会における実施状況における意見交換 委員長より、各分科会からの報告に基づきコメントがあり、その後各分科会の動きについて意見交換を行った。</p> <p>以下の意見、質疑応答があった。</p> <p>○第1分科会においての県内就職率における定義付けをきちんとすべきではない、県外企業に採用されて、県内事業所で勤務することになった場合、これは県内定義と許す間隙はないと思うし、それをカウントしないのは不自然だと思う。</p> <p>●そこをカウントするのであれば、平成26年度の基準値も変更することになる。また県外企業採用で、県内事業所勤務を担保するのは難しく、その調査の働きかけも難しい。</p> <p>○三重県で県内採用の定義のようなものはあるのか。</p> <p>●そもそも県外本社採用で県内事業所勤務の数値を把握することが出来ない。ただし、それを補填するために動くということはないと思う。</p> <p>○数値目標の達成に阻まれるのではなく、本来の目的である県内高等教育機関の学生が県内に定着するというのが大事であり、なぜ県内に就職しないのかの原因分析をきちんと行えば、次の施策に繋がる。</p> <p>○第3分科会で検討している内容でもあるが、数値目標達成に向けての数値の検討は後の話であり、高等教育機関が連携してする部分、各高等教育機関でできる部分と整理する必要がある。</p> <p>○三重県は立命館大学や同志社大学等、県外の大学に対して三重県内に働くよう働きかけを行っているが、それは認識であり、そうしなければ県内企業は県内学生を採用する流れになると思う。三重県の施策がサブパッドのように感じられる。</p> <p>●県外の学生をインターンシップで雇う事は雇用統計が打っている。県内中小企業の人材確保で動いているが、県外学生と県内企業及び県内学生と県内企業の間でミスマッチが起こっており、県内企業のニーズが満たされていない状況。県内学生と県内企業のマッチング戦略は、戦略企画部が動いているが、人材雇用という面から見ると、県外・県内どちらの学生も必要である。ただ、インターンシップについては、本来対象であるべきだが、県内学生を優先している状況。県内学生のみであればあるという戦略はあり得ず、どのように割り合いをつけるかになってくる。また、団体も首都圏の学生を地方にインターンシップさせるという戦略があり、県外・県内バランスが取れるように動く必要がある。</p> <p>○子どもの就職について、保護者がどのように考えているか知りたい、恐らくこちらとは</p>	<p>全く異なる結果で考えていると思う。</p> <p>○ある保護者の話だが、県内の大学に行った上の子どもは、県内就職をしてもらいたくても就職の情報が手に入らなかったのに対し、下の子どもは県内の大学に進学したことで県内企業の情報が手に入りやすくて、安心して県内就職してもらえようだという話があった。県内高等教育機関は県内企業について情報を手に入れやすい、それを保護者や学生に伝えることができる。保護者へそのようなメリット、安心感を伝えるという人口戦略も重要だと思う。</p> <p>○みえまるおわり企業ナビがその点だと感じる。様々な切り口で企業を紹介している。</p> <p>○そのサイトの企業はコロンバ等限定しており、そのサイトは良いになっている。</p> <p>○県内の大学に進学した学生数も県内企業に就職を希望していたが、リクナビ、マイナビ等で検索しても県内企業の情報があまりなく、県内就職に苦戦したという話があった。その中で、ある学生は、とあるインターンシップに参加したことで、様々なネットワークができて、県内企業に繋がったという話があった。県外学生は非課税のネットを辿っても、県内企業の就職情報にありつけないことは難しいため、そのような特長なネットを普通のネットにできないかを模索している。そういった意味では、あふキャリアのように、県内企業の若手社員と接点を持てるような動きがたくらんあれば、県内就職は高まるのではないかと感じる。</p> <p>○実務家教員データベースは、現在、高等教育機関に在籍している教員の情報を登録し、県内企業等に定着する仕組みもいるのではないが、自治体から来る依頼も、いつでも対応する人物が定着してくる。特定の人物ではなく、色んな選択肢が持てるようにした方がよい。</p> <p>○そういう意味では、以前より構想している「地域創生データベース」が必要になってくると思う。各町のコアを調査を実施したが、県内高等教育機関の教職員情報を登録し、各町のコアと高等教育機関のシーズをマッチングする仕組みが必要だと思う。</p> <p>○それは地域創生部会の内容と異なる、そこは整理すればよいと思う。地域創生部会では、高等教育機関教員間のシーズを整理し、どのようなことを対応できるかまとめ、市町の課題に提供するような流れを考えている。</p> <p>○各高等教育機関のデータベース構築も実務家教員のデータベース構築も含めた方がよいのではないか。</p> <p>○県内就職率の%数値だけでなく、実数も見ることがある。</p> <p>6 その他 委員長より、外部評価委員会について平成28年度の評価を平成29年3月頃に実施し、年1回開催である旨確認しているが、内部評価委員会のあり方等については、今後検討することとする旨説明が確認された。</p> <p>以下の意見があった。</p> <p>○教育プログラム開発委員会、COC+事業推進会議も年度の振り返りを行い、計画を行うものと思うが、毎回分科会の進捗状況を報告するのは時間がない、その会議で内部評価を行っても良いのではないかと感じる。</p> <p>○各分科会の考え、具体的な動きを関係付けて検討する場がないように思う。どのような方法でも良いので、情報共有を事務局側でも出来るようにしたい。</p> <p>○HPは各分科会の進捗報告を掲載するということもある。</p> <p>○教育プログラム開発委員会が内部評価をすることはできるのか。</p> <p>○教育プログラム開発委員会にその出席しない方もいるので、難しいのではないかと。</p> <p>○教育プログラム開発委員会は、内部評価、情報交換等にスリム化し、後はCOC+事業推進会議で議論するという形でも良いと思う。</p> <p>○分科会が中心になって動いているのであれば、教育プログラム開発委員会に事項をお任せ、COC+事業推進会議に意見をすり合わせるということも考えられる。</p>
---	--

関連データ

三重創生ファンタジスタ資格パンフレット

ダウンロード URL : <http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiiki/fantasista/distribution2016.html>



平成28年度版三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻ガイド

ダウンロード URL : <http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiiki/fantasista/distribution2016.html>



平成27年度キックオフシンポジウム報告書

ダウンロード URL : <http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiiki/coc-l.html>



COC+事業ガイド

ダウンロード URL : <http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/chiiki/cocpls-guide.html>



注釈

注釈1：地域創発センター及び地域創発センター運営委員会

平成27年11月1日、三重大学に「地域創発センター」を設置した。地域創発センターには、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」を推進するため、専任教員2名、地域活性化推進コーディネーター6名、事務補佐員2名を配置した。また、三重大学全学部で「三重創生ファンタジスタ」を養成すべく、各学部等全学より委員を選出し、「地域創発センター運営委員会」を組織した。地域創発センター運営委員会では、三重大学における「三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コース」における教育プログラムの検討や、COC+全体を見通した事業計画の策定を行うこととした。

注釈2：教育プログラム開発委員会及びCOC+事業推進会議

事業協働機関全てでCOC+を推進するため、「教育プログラム開発委員会」及び「COC+事業推進会議」を組織し、教育プログラムの構築やCOC+数値目標達成に向けた方策について検討する体制を整えた。年度毎に各会議を2回ずつ開催することとし、事業計画に基づく詳細な検討については、教育プログラム開発委員会直下の3つの分科会で実施することとした。

注釈3：教育プログラム開発委員会直下3つの分科会

COC+を全高等教育機関と連携し、綿密に協議、実践するため、「教育プログラム開発委員会」の直下に3つの分科会を設置し、各分科会において詳細な検討を行うこととした。3つの分科会に、それぞれ分科会長を置き、その指導の下、計画を推進することで、COC+校である三重大学以外の高等教育機関が積極的にCOC+に関わる事が出来る体制を整えた。特に教育プログラムを検討する第2分科会(後述参照)直下には、高等教育機関全てが参加する「教学WG」と産業界と協議する場である「産学WG」を別途設け、定期的に教育プログラムについて検討する機会を整え、県内就職における出口戦略を協議した。

注釈4：内部評価委員会及び外部評価委員会

COC+の方向性を確認するため、COC+事業責任者と各分科会長で構成された「内部評価委員会」を組織し、推進状況や問題点の精査を行うとともに、「外部評価委員会」を組織し、PDCAサイクルが円滑に進むよう体制を整備した。

注釈5：企業情報データベース

COC+の掲げる目標値である、事業協働機関におけるインターンシップの増加計画や、県内就職率向上にかかる県内企業情報を発信するために企業情報データベースを構築し、企業情報の登録を行った。事業協働機関をはじめ、随時県内企業の情報を収集し、更新している。

注釈6：キックオフシンポジウム

平成28年1月23日(土)三重県庁講堂にてキックオフシンポジウムを開催した。275名が参加し、三重県における地方創生の高い関心が伺えた。基調講演には、前明治大学学長であり、大学基準協会特別顧問の納谷廣美氏をお招きし、「地方創生とCOC+事業の意義と期待」をテーマにご講演いただいた。また、パネルディスカッションには、自治体、県内企業、現役学生、卒業生の計8名をパネリストとして登壇いただき、地域活性化推進コーディネーターがファシリテーターとなり、「三重県における地方創生を考える～これからの三重県が必要とする人材とは～」をテーマに意見交換を行った。

注釈7：三重大学における三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コース

三重大学COC+事業では「地域イノベーションを推進する三重創生ファンタジスタの養成」を事業名としており、県内の課題を解決する「三重創生ファンタジスタ」を養成することが目的となっている。この「三重創生ファンタジスタ」は県内で活躍したい学生を応援する資格になっており、県内就職に対してインセンティブになるよう、働きかけている。

三重大学における教育プログラムは、特に3つの分野である「食と観光」、「次世代産業」、「医療・健康・福祉」に強い人材を育てることを目標としている。また、各分野には、テーマに即した科目のラインナップが用意されている。具体的には、「地域志向科目群」、「地域実践交流科目群」、「地域イノベーション学科目群」の3つの科目群が用意されており、そこから12単位以上(各科目群における必要最低単位は修得要)修得することで、各分野における地方創生のエンジンとして活躍できる人材が育成されるようになっている。

注釈8：三重大学「三重を知る」共同授業

「知る」(再発見・再認識)をテーマとする「地域志向科目群」に「日本理解特殊講義(授業テーマ:三重の歴史と文化)」、「現代社会理解特殊講義(授業テーマ:三重の産業)」の2科目を配置した。三重創生ファンタジスタとして学修してほしい三重に関する知識を多数のゲストスピーカーを招き、様々な視点から講演いただくことで力が身につく構成になっている。

注釈9：全高等教育機関におけるPBL科目

「体験・経験を通して学ぶ」をテーマに「食と観光実践」、「次世代産業実践」、「医療・健康・福祉実践」の3科目を配置した。現場で三重県の課題を学修することを念頭に置き、3つの分野にスポットをあてることで、その分野に関する知識を得るだけでなく、他者と協働する力も磨かれる構成になっている。

注釈10：三重創生ファンタジスタ(ベーシック)資格

四日市大学、皇學館大学、鈴鹿大学、鈴鹿医療科学大学、三重県立看護大学、四日市看護医療大学、三重短期大学、鈴鹿工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校の9高等教育機関で養成する三重創生ファンタジスタ資格。三重県や地域に関して学ぶ科目を各高等教育機関が提示し、第2分科会教学WGにおいて1科目ずつ審議され、承認された科目を6単位(90時間)以上修得することで認定される。

注釈11：熟議(28.7.16)

地域の魅力を考えるにあたり、都会の魅力と対比させ検討することとし、KJ法を用いて地域の魅力と都会の魅力を考えながら、三重県でどういった展開が出来るかを発表した。特色として、三重大学2年生の学生4名を中心とした、熟議運営委員会を結成し、学生を中心として熟議の企画、運営を行った。学生にとっては、密な社会人との触れ合いや初めての企画、イベントの運営だったが、責任感を持って自発的に運営する姿が見られた。

注釈12:熟議(29.2.12)

特に三重県の東紀州地域にスポットをあて、三重県の重要産業である「第一次産業」をテーマに、三重県の第一次産業の課題や特徴を理解するとともに、どのような発展が考えられるかを検討した。特色として、今年度開催した「第一次産業体感ツアー」の報告会を第1部に行い、三重県における重要産業である第一次産業の特色、課題、将来像について本体感ツアー参加者・関係者、事業協働機関関係者等と共有を行った。また、その発展として、第2部で熟議を開催し、第一次産業の振興策について、様々な関係者と討議を行った。

注釈13:第一次産業体感ツアー(林業)、(農業)、(水産業)

三重県南部地域では、第一次産業が主な産業であるものの、人口減少、高齢化の進展により担い手の不足が深刻化している。三重県南部の課題、ポテンシャル、人を現場で体感し、地域の魅力を発見することを目的としている。

注釈14:留学生による地域大発見と情報発信ツアー

県内(東紀州地域)の自然・歴史・文化を体感してもらうことにより、地域の魅力をSNS等により情報発信してもらうとともに、留学生の県内就労を促すことを目的としている。

注釈15:3本の第一次産業体感ビデオ教材

平成28年度COC+で実施した3つの第一次産業体感ツアー(林業・農業・水産業)の映像を活用し、各第一次産業で抱える課題やその未来を考えさせるビデオ教材を作成した。現在、三重大学地域創発センターHP及びCOC+HPに掲載されている。

注釈16:みえリーディング産業展

先端分野から地域密着型の産業まで、多様な分野の企業や団体を一堂に集めた展示会であり、三重大学COC+として、三重創生ファンタジスタ養成事業に係る認知度の向上や事業協力の依頼を目的として参加した。

注釈17:三重大学/皇學館大学共催FD

三重創生ファンタジスタを養成するうえで、学生の成長度合いの指標を見える化するため、ループリックを共に検討・開発している企業を招き、事業協働機関等関係者に対して、「学外学習における学習成果の評価・認証～形成的評価指標(ループリック)の実践的活用～」をテーマにFDを開催した。

注釈18:高等教育コンソーシアムみえ

三重県内高等教育機関相互並びに県内高等教育機関と地域との連携を促進することにより、県内高等教育機関の教育、研究、地域貢献の各機能の向上を図り、人口減少の抑制及び地域の活性化を実現することを目的として設立。COC+の補助期間終了後、COC+の機能を移転し、高等教育コンソーシアムみえが後継機関として事業を継続する。

注釈19:県内就職と地域活動に関する意識調査アンケート

就職を意識する県内高等教育機関の卒業年次1年前の学生を対象に、学生の県内定着に向けた具体策を検討する基本資料とするため、学生の就職、インターンシップ、地域活動に関する意識や活動状況を把握することを目的として、就職や地域活動に関する学生意識調査を行った。

注釈20:社長セミナー

三重大学長が掲げる「県内企業200社訪問」におけるその後の取組として、社長セミナーを実施。学生に県内企業の魅力を伝えるとともに、共同研究等、大学と企業の接点を更に増やすことが大きな目的。

